

基礎演習

担当教員 前堂 志乃

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけましょう。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 平山 篤史

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 井村 弘子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを4～5回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 岩田 直子

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習の目的は各自の大学生活へのスムーズな適応や、有意義な大学生活が送れるよう、基礎的能力を養うことを支援する。そのために必要な基礎学習、例えば、文献資料収集方法、レポートの書き方、口頭発表の仕方を中心に行う。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義の時に説明する。

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題への取り組み、課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

活動に応じて適宜に紹介する。

基礎演習

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

高校までの勉強は、既存の知識を「学」ぶことに重点がおかれてきたが、大学では将来に向けての専門知識を学習するだけでなく、その知識が正しく理解できたかどうかを問う、確認する能力やあらたに問題を発見し、その解決方法を見いだす能力を身につけていくことが求められる。本講義では「学」ぶ、そして「問」う能力の基本となる、読む、書く、話す、聞くことを中心にゼミを展開する。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	ゼミメンバー紹介
3	グループエンカウンター1
4	グループエンカウンター2
5	グループエンカウンター3
6	グループエンカウンター4
7	他ゼミとの合同懇親会
8	グループワーク1
9	グループワーク2
10	グループワーク3
11	グループワーク4
12	学外講師招聘
13	グループワークまとめ1
14	グループワークまとめ2
15	グループワーク報告会
16	

【履修上の注意事項】

読む、書くことによって自分の意見をまとめ、発表によって話す態度を、他の発表を聞くことによって傾聴の態度が身につくことを念頭にゼミ活動には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

出席回数を客観的評価指数とし、その他に意見発表、傾聴姿勢、レポート提出などを含めて総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。資料は随時配布する。

【参考文献】

演習時間に随時紹介する。

基礎演習

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

「基礎演習」では、大学生活を有意義に過ごすために「大学でいかに学ぶか」ということに焦点をあてていく。高校までの学び方とは違い、大学ではより積極的に楽しく学ぶことが求められる。そのために図書館の活用、レポートの書き方、口頭発表の方法等を中心に学ぶ。大学で有意義に学ぶには、学生個々の読む、書く、聞く、話す、推論する等の必要最小限のスキルが必要である。

【授業の展開計画】

個別ゼミで学ぶ柱は、以下の通りである。

1. オリエンテーション
2. レポートを書く技術1：書式とマナー
3. レポートを書く技術2：書き方
4. レポートを書く技術3：表現
5. レポートを書く技術4：引用の方法
6. レポートを書く技術5：図表
7. 授業への参加1：質問の仕方と答え方
8. 授業への参加2：グループディスカッション
9. 授業への参加3：討論
10. 授業への参加4：口頭発表
11. 合同ゼミ(予定)
12. よい学びのための道具1：文献を使いこなす
13. よい学びのための道具2：文献の探し方
14. よい学びのための道具3：研究論文の読み方
15. まとめ

※授業計画については、初回授業時に提示する。計画としては他ゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

授業の性質を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

授業への参加、個別発表、課題への取り組み・提出および出欠状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

田中共子 編(2009)：『よくわかる 学びの技法 第2版』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

藤田哲也(2006)：『大学基礎講座 改増版』、北大路書房。

基礎演習

担当教員 知名 孝

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

コミュニケーション・スキル

担当教員 知名 孝

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

社会福祉援助職として必要とされるコミュニケーション能力の養成を目的として、講義および実践型ワークショップを中心とした、参加型の講座である。講座の目的から、履修可能な人数を少人数にしている。

【授業の展開計画】

15回を講義と活動を織り交ぜて構成している。コミュニケーションスキルについての講義の時間につづいて、学生参加型の活動（グループ、個人、レクレーション、創作など）を行っていく。それぞれの活動のあとには、振り返りの時間を設ける。活動を通しての自らの経験・コミュニケーションや関係性のもちかたなどを言語化し、振り返る時間としている。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題の提出、活動への参加などにもとづき評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

社会科学研究法

担当教員 桃原 一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会福祉を専門的に学んでいくうえで基本となるのは、社会の構造や人びとの日常生活の仕組み、およびその関係性を的確にとらえる視角を身につけることである。しかし、複雑怪奇で多様な様相を呈した現代社会においては、その仕組みや関係性を紐解くことは容易ではない。よって、これらの解明に必要な知的技能の道具が「社会科学」という特殊な「メガネ」である。この「メガネ」をより効率よく駆使することにより、社会の仕組みがより深く理解することが可能となる。本講義はこの知的技能を身につけつことを目的とする。

【授業の展開計画】

本講義は「社会科学」という特殊言語の世界を回遊するため、「理論」「概念」「命題」「構造」「対象構成」「変数」「仮説構成」など、きわめて抽象度の高い内容となる。よって、あくまでも講義スタイルとならざるを得ないが、できる限り受講生の身近な社会現象や問題とリンクさせながら実践的に取り組める課題も盛り込んでいく。

週	授 業 の 内 容
1	社会科学の基本①－「社会を科学する」とは何か？
2	社会科学の基本②－方法論上の基本的用語「理論」「概念」「仮説」「命題」
3	社会科学の基本③－社会を捉える視角として「構造」「過程」「現象」とは何か
4	個および個人をとらえる視角①－人間の自我と社会的行為（心理学との違い）
5	個および個人をとらえる視角②－行為と発話の演技性
6	社会の関係と構造を捉える視角①－社会学の諸理論を中心に
7	社会の関係と構造を捉える視角②
8	中間試験
9	社会科学の実践①－社会問題のピックアップ
10	社会科学の実践②－対象構成
11	社会科学の実践③－概念操作と変数設定
12	社会科学の実践④－仮説構成
13	社会科学の実践⑤－仮説検証に向けて
14	まとめ
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

私語等、受講態度が著しく悪い学生は、試験や課題レポートの内容に関わらず履修不可（成績「不可」）となる。

【評価方法】

出席状況で20%、残り80%を中間試験と期末試験（または課題提出）で評価する。

【テキスト】

適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

適宜プリント等を配布する。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「社会学ってなに?」と考えると、すぐさま高校までの社会科を思い起こし拒絶感や虚脱感を抱く学生も少なくないはずだ。ところが、社会学とはこれまでの社会科の知識を一旦忘れても構わない。社会学は、自分自身が生きる日常世界に対して疑問や関心さえあれば誰にでも飛び込むことができる学問なのである。つまり「自分」なのである。「わたしって何者なのか、今この世の中でどう生きているのか/生かされているのか」という問いが大切なのだ。「自己」「他者」「自明性」について考える方向感覚を身につけていく作業が、そのものが、社会学であるともいえる。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人およびグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論 I への招待
2	社会学の歴史①
3	社会学の歴史②
4	権力論から読み解く社会学①
5	権力論から読み解く社会学②
6	日常生活に潜む権力作用①
7	日常生活に潜む権力作用②
8	知と主体性の問題①
9	知と主体性の問題②
10	ジェンダーと権力論的社会学①
11	ジェンダーと権力論的社会学②
12	ジェンダー社会学の基礎—「家父長制」と「母性」
13	社会的に見る差別問題①
14	社会的に見る差別問題②
15	能力主義がうむ「いじめ」と「社会的弱者」
16	

【履修上の注意事項】

今年度はグループでの学習も取り込んでいくので、ディスカッションなど積極的に参加すること。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

【参考文献】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「社会学ってなに?」と考えると、すぐさま高校までの社会科を思い起こし拒絶感や虚脱感を抱く学生も少なくないはずだ。ところが、社会学とはこれまでの社会科の知識を一旦忘れても構わない。社会学は、自分自身が生きる日常世界に対して疑問や関心さえあれば誰にでも飛び込むことができる学問なのである。つまり「自分」なのである。「わたしって何者なのか、今この世の中でどう生きているのか/生かされているのか」という問いが大切なのだ。「自己」「他者」「自明性」について考える方向感覚を身につけていく作業⁷。そのものが、社会学であるともいえる。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人およびグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論Ⅱへの招待
2	権力論から読み解く社会学—後期編①
3	権力論から読み解く社会学—後期編②
4	ゲーム論からみる社会①
5	ゲーム論からみる社会②
6	社会学における差別論の基礎①
7	社会学における差別論の基礎②
8	「犯罪」から読み解く現代社会①
9	「犯罪」から読み解く現代社会②
10	メディア文化の社会的解読法①
11	メディア文化の社会的解読法②
12	モノと消費をめぐる社会的冒険①
13	モノと消費をめぐる社会的冒険②
14	応用編—社会、ファッション・自己表現・「アイデンティティ」
15	後期のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

今年度はグループでの学習も取り込んでいくので、ディスカッションなど積極的に参加すること。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

【参考文献】

中根光敏、他『社会学に正解はない』（松籟社）など、適宜紹介していく。

社会調査の基礎

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会調査の基礎

担当教員 千住 直広

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。？

【授業の展開計画】

- 1 社会調査とは？—その意義、目的—？
- 2 社会調査の歴史とソーシャルワーク？
- 3 社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—？
- 4 事前の情報収集の方法 1？
- 5 事前の情報収集の方法 2？
- 6 社会調査の基本的な道具？
- 7 研究テーマの設定法？
- 8 調査の企画、設計？
- 9 概念、変数、仮説の活用？
- 10 量的調査—調査票作成の事前準備？
- 11 質問文作成の基本ルール？
- 12 選択肢作成の基本ルール？
- 13 調査に関する様々な誤差 1？
- 14 調査に関する様々な誤差 2？
- 15 社会調査法 I の総括と課題発表？

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。？

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。？

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房？

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。？

社会統計基礎

担当教員 嘉手川 繁三

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

人間福祉学科の学生を対象に統計の基礎を学んでいく。特色としては、①数学は中学程度の知識があればよい、②平均や標準偏差など、すでに習っているものから始める、③例題や演習問題はパソコンのエクセルを用いる、をあげておこう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業の進め方、統計とは？ エクセルの利用
2	データのグラフ表現 1
3	データのグラフ表現 2
4	度数分布表とヒストグラム
5	累積度数曲線の応用
6	平均、中央値、最頻値
7	散布度、分散、標準偏差
8	度数分布表からの平均、標準偏差の計算
9	散布図と相関係数
10	回帰直線の求め方
11	確率分布、二項分布、ポアソン分布
12	正規分布
13	t ー分布
14	母平均の区間推定
15	比率の区間推定
16	

【履修上の注意事項】

パソコンのエクセル（表計算）に習熟している方が望ましい。

【評価方法】

クラスへの出席と課題の提出物で評価する。締め切りに遅れた提出物は評価しない。

【テキスト】

指定しない。プリントを配ります。

【参考文献】

水野恭之 「看護学系の統計入門」 培風館
 新田 功 「同時に学ぶExcelと入門統計学」 ムイスリ出版

社会福祉学基礎

担当教員 安次富郁哉・他 4 名

配当年次 1 年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻の教員の専門分野をオムニバス方式で紹介し、社会福祉学のおもしろさ、研究のおもしろさを伝える。

合わせて、大学で学ぶとはどういうことなのかを理解する機会とする。

【授業の展開計画】

社会福祉専攻の教員 6 名が、オムニバス方式で講義を行う。

詳細は、前期初回の講義の時に提示する。

【履修上の注意事項】

人間福祉学科1年次全員が履修する科目であり、人数が非常に多い科目なので、提出期限を守ることや講義時におしゃべりをしない等、大学生としてあたり前の行動をとることを心がけてほしい。

【評価方法】

出席状況
レポートなどの課題の提出状況およびその内容
その他

【テキスト】

テキストはなし。
各教員が随時資料を配付する。

【参考文献】

各教員が随時提示する。

社会理論と社会システム

担当教員 桃原 一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この科目は国家資格「社会福祉士」受験のための基礎科目としても重要であり、また現代社会を解説していくための基礎的な視点を身に付けていくためのものである。とくに、社会理論による現代社会の捉え方を理解し、現代人の生活、社会関係、おもな社会問題について理解することを目的としている。

【授業の展開計画】

講義は国家資格とも関わるためテキストを用いるが、社会理論の魅力を理解してもらうためにも「社会学」の視点を取り込んで、現代社会の仕組みを批判的に見るための内容を展開する。また、講義の進め方としてテキストを（とくに社会学的視点において）補足するためのプリント等を配布する。また、講義に対する質問等も毎回受け付け、翌週、講義の冒頭で補足解説を行う。

週	授 業 の 内 容
1	社会システムとは何か—文化・規範・法、社会秩序と社会意識、階級構造など—
2	経済と社会システムとの関係—市場と交換の概念、労働と就労の形態—
3	社会変動の諸側面—近代化、産業化、情報化—
4	「国勢」としての人口構造—少子高齢社会を中心に—
5	「コミュニティ」と「地域」の違い—都市化と地域社会の変動、地域集団・組織の意味と価値転換
6	現代の社会集団と社会組織の様相—その基礎概念と近代性・現代性—
7	中間試験
8	現代社会の家族—家族の構造・形態および機能、家族変容—
9	現代人のライフスタイル志向と現実—生活時間とライフサイクル、消費と生活様式—
10	現代人の社会関係と社会的距離—他人志向からミニマムセルフへ—
11	社会的行為と社会的役割—人間が社会的存在であることの証として—
12	「社会問題」の社会学—社会問題の捉え方の基礎
13	「社会病理学」は有効か？—逸脱論を中心に
14	様々な「社会問題」から—差別と社会的排除、貧困・失業・自殺、「犯罪・非行」など
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

基礎必修であるため必ず履修しなければならないが、当然のごとく私語など受講態度がひどい学生はテスト等の成績に関わらず履修を認めない（つまり「不可」となる）。

【評価方法】

全体の評価のうち、出席率で20%、中間試験と期末試験で残り80%を評価する。これに関わらず、受講態度がひどい学生は「不可」となる。

【テキスト】

後日お知らせする。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介し、またプリント等で補足する。

心理学概論

担当教員 前堂 志乃・平山 篤史

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この講義では、心理学の歴史、主要な研究、重要な理論などを幅広く取り上げ、心理学の各専門領域を概説する。心理学全般についての幅広い基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点を身につけてもらいたい。また、この講義はオムニバス形式で開講し前期は前堂、後期は平山が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・動機づけ・情動・こころと脳・思考・知能、後期は、発達、人格、社会、臨床などを取り上げる。普段は気づかない自分のこころの仕組みや心理学の面白さを知って欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	発達心理学①
2	感覚・知覚①	18	発達心理学②
3	感覚・知覚②	19	発達心理学③
4	記憶①	20	人格心理学①
5	記憶②	21	人格心理学②
6	学習①	22	社会心理学①
7	学習②	23	社会心理学②
8	動機づけ・情動①	24	社会心理学③
9	動機づけ・情動②	25	社会心理学④
10	こころと脳①	26	臨床心理学①
11	こころと脳②	27	臨床心理学②
12	思考と創造性①	28	臨床心理学③
13	思考と創造性・知能②	29	心理学を学ぶことは役に立つのか？①
14	心理学の歴史と研究法①	30	心理学を学ぶことは役に立つのか？②
15	心理学の歴史と研究法②	31	
16	オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・木曜1校時のこの「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- ・人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する場合は、火曜日新6校時に開講されるクラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となっており、H23年度は開講されません）。

【評価方法】

- ・出席、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- ・前期と後期それぞれにおいて、出席、レポート、期末試験などを課す。詳細については、それぞれ学期初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

授業時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学と職業

担当教員 前堂志乃・平山篤史・上田幸彦・井村弘子・山入端津由

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業では、心理カウンセリング専攻の学生が心理学を学んだのち、社会とどのように関わることになるのかについて学ぶ。まず、心理学という学問の性質と実際の仕事のなかでの心理学の研究成果の生かされ方などについて学ぶ。そして、心理学の知識を生かせる職業について、学生自身で調べ報告する。さらに、心理学を学んで就職している卒業生から、心理学と現在の仕事について話を聞き、心理学と職業についての考えを深める。加えて、心理学を学んだ者が仕事をしている県内の施設等を訪問し、心理学の現場について具体的に学ぶ。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の授業時に説明する。

【履修上の注意事項】

この授業は、施設を訪問して体験的な学習を行うため、ある程度まとまった時間を確保する必要がある。そのため、夏期集中講義の形式で行う。また、特殊な形式の授業であるため、受講は心理カウンセリング専攻の学生に限定する。

【評価方法】

- ①出席：出席表に必要事項の記入して提出
 - ②コメントシート：毎回のテーマについて、感想・意見などを書いて提出する
 - ③ディッシュカッションへの参加：各時間ごとにグループディスカッションを行い、話し合った内容を発表する
 - ④まとめのレポート：心理学と職業全体を通して学んだことについてのレポートを提出する
- ①～④を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する 2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。 4. 心理的支援の方法と実際について理解する。この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えていきます。理論と実践をつなぐ作業でありたいと思いますので、積極的な参加と「感じる心」、個々人の意思の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

- 1週 オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
- 2週 人の心理学的理解：認知・思考
- 3週 人の心理学的理解：感情・情緒
- 4週 人の心理学的理解：自己理解・他者理解
- 5週 人の成長・発達と心理：人間発達について
- 6週 人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
- 7週 人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
- 8週 日常生活と心の健康：心の健康とは？
- 9週 日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
- 10週 日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
- 11週 心理的支援の方法と実際：援助すること
- 12週 心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
- 13週 心理的支援の方法と実際：交流のワーク
- 14週 心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
- 15週 期末試験
- 16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用などにおける、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
 石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介する

心理統計学基礎

担当教員 前堂 志乃

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目である。また、心理学基礎演習で取り組む基礎実験実習、心理学専門演習Ⅰ、心理学専門演習Ⅱで取り組む卒業研究と卒業論文につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもある。講義、ワーク、グループディスカッション、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学の専門の学習に必要な学習スキルと心理統計の基礎を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究と心理統計学①
3	心理学研究と心理統計学②
4	心理学の文章作法①
5	心理学の文章作法②
6	心理学の文章作法③
7	心理統計学の基礎知識①
8	心理統計学の基礎知識②
9	データ測定の基本①
10	データ測定の基本②
11	データ整理の基本①
12	データ整理の基本②
13	データの効果的な提示方法①
14	データの効果的な提示方法②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- 心理カウンセリング専攻1年次および2年次編入生にとって、重要な科目となるので心理専攻学生を優先して登録する
- 心理統計学や心理学研究法について理解するためには、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」「自分で考えること」が大切である。講義やワーク、グループディスカッション、課題等に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲を持って受講して欲しい。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：心理統計学、心理学研究法に関連する基礎課題をいくつか課す
 期末課題：学期末にいくつかの期末課題を課す
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

テキストは特に指定しない

【参考文献】

講義時に適宜紹介する

情報リテラシー

担当教員 玉城 要

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉英語基礎

担当教員 ーロビンソン サイモン

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 知名孝・ドナルドウィルコックス・安次富郁哉・比嘉昌哉・岩田直子・桃原一彦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この科目は新入性を対象としたオリエンテーション的な内容であることから、入学年度（編入生は初年次）の前期で履修するものである。本科目は専攻主任によって専攻1年生合同のゼミを行なうが、専攻教員各人がアカデミックアドバイザーを担当することによるクラス編制も行なう。よって、各アドバイザー担当の個別クラスに分かれてゼミを行うこともある。なお、クラス編制は専攻会議において行なう。なお、後期の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」で確定したアドバイザーの各クラスに、登録することになる。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング学生との）合同プログラムも予定している。とくに、5月には福祉・心理新入生合同の一日研修を本学体育館で開催し、福祉レク、心理学的ゲームやレク、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別のセミナーにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行なう。そのなかで、アドバイザーに個別の履修指導や学生生活の相談等を実施してもらった時間としても設定している。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけるように。

【評価方法】

大部分は出席状況で全体の評価を占めるが、残りは全体ゼミや個別クラスにおけるプログラムへの取り組み姿勢等においてアドバイザーからの報告を持って評価する。

【テキスト】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

ボランティア演習

担当教員 比嘉 大輔

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ボランティア・NPO論

担当教員 千住 直広

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 NPO、ボランティアとは
- 3 社会の発展
- 4 社会学的想像力
- 5 社会のしくみ
- 6 市民社会とは
- 7 メディアリテラシー、リサーチリテラシー
- 8 地域を知る方法
- 9 地域を変える方法①
- 10 地域を変える方法②
- 11 地域を支える経済的しくみ①
- 12 地域を支える経済的しくみ②
- 13 地域に参加する技法（参加型グループ学習）①
- 14 地域に参加する技法（参加型グループ学習）②
- 15 テスト

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

ライティング・スキル

担当教員 小柳 正弘

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

「書く」ことを中心に「知的生産」の原理と技法を理論と実践の両面から学ぶ。

【授業の展開計画】

「書く」ことを中心に知的生産がどのようなものかを理論的に検討するとともに、日本語の作文技術を、日本語教育の手法にもとづき訓練をとおして実践的に習得する（授業中や授業の前後に練習問題等にくりかえしとりくむ）。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	知的生産とは何か [梅棹忠夫、ジョン・ケージ、山根一眞、立花隆]
3	作文技術の古典 [清水幾太郎、木下是雄、本多勝一]
4	作文技術の見取図 [野口悠紀雄] (メッセージ、形式と内容、説得力、推敲)
5	読み書きの勘どころ [野口悠紀雄] (1) はじめに字数ありき
6	読み書きの勘どころ [野口悠紀雄] (2) 速く正確に読む技術
7	読み書きの勘どころ [野口悠紀雄] (3) わかりやすく書く技術
8	パラグラフ・ライティング (1) トピック・センテンスとサポーティング・センテンス
9	パラグラフ・ライティング (2) 段落を作る練習
10	レポートを書くために (1) 作成の手順
11	レポートを書くために (2) 段落構成
12	レポートを書くために (3) 文体
13	レポートを書くために (4) 表現
14	レポートを書くために (5) 書式
15	論理の基本 (論理的であるとはどういうことか、演繹と帰納) 16回目に試験
16	

【履修上の注意事項】

授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。受講者それぞれが書いたものは授業の素材としてすべて公開する。「書く」ことのみならず「知的生産」一般をテーマとする。自分の言いたいことをきちんと書いたり話したりことができ、他人の言いたいことをきちんと読んだり聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室では私語は厳禁。質問は原則授業中に行うこと（問題を教室で共有する）。

【評価方法】

授業への実質的な関わり（小レポートや発言の記録）と試験を総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配付する他、授業の展開に応じて別途指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

介護概論

担当教員 伊敷 和枝

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL、自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークのかかわりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助技術態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義を主体とする。但し、テキストの活用は、当事業展開計画に準ずるため順不同となる。（活用ページは、授業時に指示する。）また、テキストにない事業内容については、プリント資料をもって行う。なお、地域保健・福祉の理解に必要な介護展開状況（実際）のイメージ化を図るため、可能な限りVTR教材活用とミニレポートの提出を求める。

- | | | |
|------|--|---------------|
| 1週目 | 介護概論の意義、介護の社会化と介護福祉 | 社会福祉士が介護を学ぶ意義 |
| 2週目 | 介護の課題（フォーマル、インフォーマル） | 問題の背景と介護の課題 |
| 3週目 | 社会福祉構造と介護に関する保健・社会政策の動向、わが国も介護制度 | |
| 4週目 | 介護の概念—社会福祉と介護概念の広がり、介護の理念と定義 | |
| 5週目 | 介護の専門性と倫理性、原理性 | |
| 6週目 | 介護対象者の理解—健康を維持する側面、日常生活から見た利用者の理解 | |
| 7週目 | 要介護者の援助関係—援助関係を築く基本、介助援助関係と視点 | |
| 8週目 | 生活（自立、QOL）支援—健康に生きる、自立的に生きるということ | |
| 9週目 | 生活上の課題を解決する介護過程と二つの活動相 | |
| 10週目 | 相談援助—介護の役割、相談援助の展開、事例による相談援助の実際 | |
| 11週目 | 社会福祉における介護の連携—事例をとおして考える相談援助の実際、利用者中心の視点にたった連携のあり方、介護保険法に求められるチームアプローチ | |
| 12週目 | 社会福祉士及び介護福祉士と医療との連携 | 他の福祉専門職との連携 |
| | 地域保健・福祉の連携と介護利用者の社会生活を維持するネットワーク | |
| 13週目 | 介護の場と介護目的・内容・住宅、ショートステイ、デイサービス、施設 | |
| 14週目 | 地域保健福祉に求められる今後の課題—介護予防、QOL支援、終末期介護 | |
| | 介護に関する保健・医療・福祉の連携とチームワーク | |
| 15週目 | 学期末試験（筆記） | |

【履修上の注意事項】

テキストの持参、欠席届の励行、私語を慎み、意欲的な態度

【評価方法】

学則に基づく出席状況をペースとする。期末（筆記）試験の得点とレポート内容（テーマは後日提示）の評価を総合して行う。

【テキスト】

福祉士養成講座編集委員会「介護概論」、新版社会福祉士養成講座14、中央出版2004年

【参考文献】

澤田信子・西村洋子編集「介護概論」社会福祉士養成テキストブック12 ミネルヴァ書房2004年
福祉士養成講座編集委員会「介護概論」、新版社会福祉士養成講座11、中央出版2004年

介護技術 I

担当教員 -伊敷 和枝

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

介護技術Ⅱ

担当教員 伊敷 和枝

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、家族を社会的に分析する力をつける。

【授業の展開計画】

1. 家族を考える視点
2. 家族の「いま」
3. 家族の構造・幻想 (1)
4. " (2)
5. 女と男と子どもの近代 (1)
6. " (2)
7. 近代的ジェンダーと家族 (1)
8. " (2)
9. つくられた〈母性愛〉 (1)
10. " (2)
11. アディクションと家族 (1)
12. " (2)
13. " (3)
14. さまざまな家族のカタチ
15. これからの家族
16. 課題

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが不可欠なので、欠席しないように。
なお毎回の講義時に配付する資料は、次回に持ち越して配布しない。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、課題等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、家族を社会的に分析する力をつける。特に「日本」の家族と「沖縄」の家族に焦点を当てる。

【授業の展開計画】

1. 家族を考える視点
2. 家族の「いま」
3. ジェンダー (1)
4. " (2)
5. 日本における性愛と婚姻と家族の変化 (1)
6. " (2)
7. " (3)
8. 経済変動と家族 (1)
9. " (2)
10. 沖縄の家族 (1)
11. " (2)
12. " (3)
13. " (4)
14. 消費型社会と家族 (1)
15. " (2)
16. 課題

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが不可欠なので欠席しないように。
なお毎回の講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しない。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、課題等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族心理学

担当教員 井村 弘子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私たちは一生のうち、いつかは何らかの家族生活を経験する。家族については誰でもわかっているようでいて、実は人々が考える家族のあり方は同一ではない。

この講義では、家族の諸相を心理学的な視点で検討した実証研究を提示しながら、家族間に起こっていることを個人的要因のみならず、家族を取り囲む社会状況や、家族のライフステージ、家族が置かれている関係性の中で理解するとともに、家族関係にどのような心理的援助が可能であるのかについて検討することを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 家族心理学の課題
- 2 家族の心理構造 (1)
- 3 家族の心理構造 (2)
- 4 家族システム理論
- 5 家族の発達過程 (1)
- 6 家族の発達過程 (2)
- 7 多世代関係の心理
- 8 親子関係と家族心理
- 9 夫婦関係と家族心理
- 10 子どもの巣立ちと家族心理
- 11 高齢者の老いと家族心理
- 12 家族関係への心理的援助 (1)
- 13 家族関係への心理的援助 (2)
- 14 家族療法 (1)
- 15 家族療法 (2)
- 16 学期末試験

【履修上の注意事項】

主体的な態度・姿勢で学ぶこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出状況、学期末試験の結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布する。

【参考文献】

中釜・野末・布柴・無藤 (著) 「家族心理学-家族システムの発達と臨床的援助-」 有斐閣ブックス

外国語演習 I

担当教員 大兼 千津子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1週目 登録・オリエンテーション
- 2週目 精神保健
- 3週目 精神保健
- 4週目 精神保健
- 5週目 心理アセスメント
- 6週目 心理アセスメント
- 7週目 カウンセリング
- 8週目 カウンセリング
- 9週目 カウンセリング
- 10週目 集団心理療法
- 11週目 集団心理療法
- 12週目 集団心理療法
- 13週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 14週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 15週目 全体のまとめ

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

欧米からきた心理学は英語で触れることによってその専門用語・理論の由来・歴史などを理解することができる。また将来的に英語の文献を読む際に、この授業で学んだ心理学英語が役立てればと思う。前半はいくつかの分野を英語で勉強し、後半は実際に文献を読んでみる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 Counseling
- 3 週目 Counseling
- 4 週目 Assessment
- 5 週目 Assessment
- 6 週目 Abnormal Psychology
- 7 週目 Abnormal Psychology
- 8 週目 Drug
- 9 週目 Drug
- 10 週目 Article 1
- 11 週目 Article 1
- 12 週目 Article 2
- 13 週目 Article 2
- 14 週目 復習
- 15 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻をしない。

【評価方法】

出席状況
レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 大兼 千津子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、心理学関連の時事英語や研究論文を読みこなすことがこの授業のねらいである。最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことは、実践現場で働きながら大いに役立つことがある。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|------|--------------|------|--------|
| 1週目 | 登録・オリエンテーション | | |
| 2週目 | 心理学関連 | 時事英語 | 原書講読 ① |
| 3週目 | 心理学関連 | 時事英語 | 原書講読 ② |
| 4週目 | 心理学関連 | 時事英語 | 原書講読 ③ |
| 5週目 | 心理学関連 | 時事英語 | 原書講読 ④ |
| 6週目 | DSM-Ⅳ | 原書講読 | ① |
| 7週目 | DSM-Ⅳ | 原書講読 | ② |
| 8週目 | DSM-Ⅳ | 原書講読 | ③ |
| 9週目 | DSM-Ⅳ | 原書講読 | ④ |
| 10週目 | 研究論文 | 原書講読 | ① |
| 11週目 | 研究論文 | 原書講読 | ② |
| 12週目 | 研究論文 | 原書講読 | ③ |
| 13週目 | 研究論文 | 原書講読 | ④ |
| 14週目 | 研究論文 | 原書講読 | ⑤ |
| 15週目 | 全体のまとめ | | |

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

American Psychological Association. (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: Fourth Edition. その他、参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

後期は米国の中・高等学校で実際に行われているLifeSkills Program（薬物予防教育プログラム）を体験してもらう。どのようにしてこの心理教育プログラムが作られ、どのように心理学がこの薬物予防教育プログラムに生かされているかを学ぶ。後半はLifeSkills Programに関する文献を読む。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 LifeSkills Programについて
- 3 週目 Making Decision
- 4 週目 Coping with Anxiety
- 5 週目 Coping with Anger
- 6 週目 Communication Skills
- 7 週目 Social Skills
- 8 週目 Assertiveness
- 9 週目 Resisting Peer Pressure
- 10 週目 Article 1
- 11 週目 Article 1
- 12 週目 Article 2
- 13 週目 Article 2
- 14 週目 まとめ
- 15 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻をしない。

【評価方法】

出席状況
レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 生得的行動パターン
- 5 馴化の基本原理
- 6 古典的条件づけの基本原理
- 7 //
- 8 CS-USの随伴性及び高次条件づけ
- 10 古典的条件づけの応用
- 11 古典的条件づけの理論と研究（レスコーラーワグナーモデル）
- 12 //
- 13 古典的条件づけにおける生物学的制約
- 14 運動技能の学習
- 15 // 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。自筆ノート、配付資料は持ち込み可とする。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。自筆ノート、配付資料は持ち込み可とする。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

教育心理学 I

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

教育心理学は、“学ぶ人の立場（味方）になって考える”ことを研究する心理学の分野である。この講義を通して、人間が自分の能力を最大限にまで伸ばし、成長し発達することを援助する方法を提供したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション／教育心理学とは
2	教える体験・学ぶ体験を通して教育心理学の視点を理解する
3	発達（1）発達段階・遺伝と環境
4	発達（2）ピアジェの発達理論
5	学習（1）褒めることの大切さ
6	動機づけ
7	学習（2）記憶メカニズム
8	中間テスト（基本概念の確認）
9	ミニ模擬授業（1）概要説明、テーマ決め
10	ミニ模擬授業（2）テーマ理解の作業
11	ミニ模擬授業（3）テーマ理解の作業、資料準備
12	ミニ模擬授業（4）テーマ理解の作業、資料準備
13	ミニ模擬授業（5）リハーサル、内容の見直し
14	ミニ模擬授業（6）本番
15	期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではありませんので、注意してください。
- ・グループワークなどもありますので、積極的な授業参加を求めます。

【評価方法】

授業中のワークシート（30%）、テスト（20%）×2回（計40%）、ミニ模擬授業（30%）

【テキスト】

『教育心理学ルック・アラウンド』 山崎史郎編著 ブレーン出版 ※教育心理学Ⅱでも使用。

【参考文献】

『やさしい教育心理学 改訂版』 鎌原・竹綱（著） 有斐閣アルマ ※その他、講義中に適宜紹介する。

教育心理学Ⅱ

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

教育心理学は、“学ぶ人の立場（味方）になって考える”ことを研究する心理学の分野である。この講義を通して、人間が自分の能力を最大限にまで伸ばし、成長し発達することを援助する方法を提供したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション／教育心理学Ⅰの振り返り
2	学習者を理解する～パーソナリティ①
3	学習者を理解する～パーソナリティ②
4	学習者を理解する～パーソナリティ③
5	指導者のあり方を考える～リーダーシップ
6	学習者を評価する～教育評価
7	中間テスト
8	中間テスト返却・前半の復習
9	教育現場で起こっていること①
10	教育現場で起こっていること②
11	教育心理学の視点を養う ディスカッション①
12	教育心理学の視点を養う ディスカッション②
13	教育心理学の視点を養う ディスカッション③
14	教育心理学の視点を養う ディスカッション④
15	期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- ・この科目は教職科目ではありませんので、注意して下さい。
- ・教育心理学Ⅰを履修済みであることが望ましいです。
- ・グループワーク等もありますので、積極的な参加を求めます。

【評価方法】

授業中のワークシート(20%)、ディスカッション(15%)、レポート(15%)、テスト(25%)×2回(計50%)

【テキスト】

『教育心理学ルック・アラウンド』 山崎史郎編著 ブレーン出版 ※教育心理学Ⅰと同じ。

【参考文献】

『やさしい教育心理学 改訂版』 鎌原・竹綱(著) 有斐閣アルマ ※その他、講義中に適宜紹介する。

グループアプローチ

担当教員 平山 篤史

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

集団心理療法の技法を利用したグループ活動を行う。具体的には、レクリエーション的活動、ロールプレイング、心理劇の実習を行う。集団の成員が相互に影響を及ぼしあうこと、他者とのコミュニケーション、自発性や創造性の発揮、自己理解と他者理解、集団場面での自分の役割、集団場面でのリーダーのあり方について体験的に学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 ウォーミングアップ的活動
- 3 対人交流を目的としたグループ活動①
- 4 対人交流を目的としたグループ活動②
- 5 対人交流を目的としたグループ活動③
- 6 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動①
- 7 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動②
- 8 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動③
- 9 自発性の発揮を目的としたグループ活動①
- 10 自発性の発揮を目的としたグループ活動②
- 11 自発性の発揮を目的としたグループ活動③
- 12 役割演技と適応
- 13 心理劇の体験①
- 14 心理劇の体験②
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

グループ活動の実践が中心になるので、参加メンバーとの相互の積極的交流が求められる。活動中も意見や感想を述べる機会が多く与えられる。積極的に他のメンバーと交流し、発言し、他者との関わりを楽しんでほしい。身体運動を伴う活動も行うので、それにふさわしい服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、授業での活動への取り組みと毎回提出するミニレポート、期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

適宜配布資料を用意する。

【参考文献】

臨床心理劇入門 台利夫 ブレーン社
SSTウォーミングアップ活動集 前田ケイ 金剛出版

ケアマネジメント論

担当教員 島村 枝美

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

2000年4月にスタートした介護保険下での介護支援専門員の仕事の中心はケアマネジメントを行くことである。ケアマネジメントは、地域で生活する要援護者を社会資源につなぎ、最終的な目標は、サービス利用者が力を取り戻し、地域に新しい支援ネットワークが生まれ、住み慣れた地域社会（在宅）での生活を可能にするために機能する。

本講義では、ケアマネジメントの理念や目的を初め、ケアマネジメントの機能、現状等について学ぶ。

【授業の展開計画】

1 週目	オリエンテーション（講義概要、講義日程の紹介）	講 義
2 週目	ケアマネジメントの目的と概念	ビデオ
3 週目	ケアマネジメントによる支援の目的等	講 義
4 週目	ケアマネジメントの構成要素	講 義
5 週目	ケアマネジメントとソーシャルワーク	講 義
6 週目	ケアマネジメントのプロセス	講 義
7 週目	コミュニティケアとケアマネジメントの関係	講 義
8 週目	介護保険制度とケアマネジメントの関係	ワーク
9 週目	サービス利用とケアプラン	ワーク
10 週目	ケアプラン（ケアマネジメント）の実際①	ビデオ
11 週目	ケアプラン（ケアマネジメント）の実際②	ワーク
12 週目	在宅生活支援とリスクマネジメント	ワーク
13 週目	ケアマネジメントとコミュニティソーシャルワーク	ワーク
14 週目	ケアマネジメントの総括（現状と課題）	講 義
15 週目	期末テスト	筆 記
16 週目	まとめ	

【履修上の注意事項】

遅刻や講義中の私語はしない。課題レポートは積極的に取り組み自己研鑽をしていただきたい。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、授業態度、レポート、発表、試験等の総合評価によって行う。
評価内訳は、試験60%、レポート作成・発表で20%、出席・授業態度が20%である。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布する

【参考文献】

「地域福祉とケアマネジメント」マルコム・ヘア 筒井書房/「ケアマネジメントハンドブック」白澤政和 医学書院/「社会福祉 援助技術論Ⅱ（第4版）」中央法規

健康スポーツ科学論

担当教員 宮城 勇

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

健康問題、今や国民の最大の関心事である。では、健康の維持増進のためにどのような知識を持ち、どう運動を行えばよいであろうか。知識なくしては健康認識は育たない。

本講は、健康と密接なつながりを持つ生活習慣を柱に、科学的で望ましい健康観・スポーツ観を多様な視点から考える講座としたい。

【授業の展開計画】

- 1.2 運動が心身に与えるよい影響
- 3.4 生活習慣を考える
- 5 スポーツ実習(体育館で汗を流そう)
- 6.7 女性とスポーツ
- 8.9 私の健康・私のスポーツ
- 10 スポーツはスバラシイ
- 11 スポーツ実習(体育館で汗を流そう)
- 12.13 子供の運動不足は取り返しが利かない!?
- 14 予備日
- 15 テスト(または課題提出)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストやレポートも判断材料とするが、日常授業への意欲・積極性などを最重視する。

【テキスト】

特に指定はしない。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

健康と運動の科学 九州大学健康科学センター編 大修館書店
現代スポーツ論 中村敏雄 他 大修館書店

権利擁護と成年後見制度

担当教員 照屋 俊幸

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

芸術療法

担当教員 中山 さおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法の方法です。「芸術」というと人によっては高尚なものをイメージするかもしれませんが、子どもが絵をかき歌い踊り工作することを楽しむような、人の自然な活動を生かしていこうとするものです。芸術療法には多くの種類がありますが、本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味、非言語的な人とのやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

【授業の展開計画】

- 1 週目 オリエンテーション
- 2 週目 芸術療法 概説
- 3 週目 絵画療法 ①
- 4 週目 絵画療法 ②
- 5 週目 絵画療法 ③
- 6 週目 絵画療法 ④
- 7 週目 コラージュ療法 ①
- 8 週目 コラージュ療法 ②
- 9 週目 コラージュ療法 ③
- 10 週目 詩歌療法 ①
- 11 週目 詩歌療法 ②
- 12 週目 詩歌療法 ③
- 13 週目 その他の技法 ①
- 14 週目 その他の技法 ②
- 15 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・実習では共同作業や話し合いを行うことがあります。他学生の作品を批判したり軽んじたりせず、肯定的に受けとめあいともに楽しむ態度を望みます。
- ・文房具や画材の持参を求めることがあります（はさみ、のり、クレヨンなど。講義で説明します）。
- ・授業の展開計画は適宜変更する可能性もあります。なお抽選となった場合は4年次より優先して行います。

【評価方法】

授業への参加姿勢、実習時のミニレポート、期末試験を総合的に評価します。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

授業で紹介していきます。

現代社会とジェンダー

担当教員 一知念 ウシ

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

現代社会と福祉

担当教員 岩田 直子・大城 安隆

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この講義では、「社会福祉」という実践そして学問としての営みを理解するための基本的パラダイムの構築を目的とする。福祉をめぐる原理・倫理の理解、福祉政策・制度の歴史とその意味、福祉実践と制度の課題、福祉実践への関連法の与える影響などをテーマに講義を組み立てていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	社会福祉とは何か（その定義をめぐって）	17	社会福祉提供システム
2	社会福祉とは何か（専門職なのか？）	18	地域福祉のパラダイムと実践
3	福祉の思想と哲学（市場原理と福祉）	19	社会福祉基礎構造と福祉実践
4	福祉の思想と哲学（自己決定と支援の哲学）	20	福祉サービス提供の意味するもの
5	福祉政策の理論と実際（行政と福祉）	21	資源の構築に向けて
6	福祉政策の理論と実際（民間事業所と資源）	22	専門家アイデンティティの功罪
7	福祉政策の理論と実際（福祉サービス）	23	援助の実際（直接対人援助）
8	福祉政策の発展過程（国外の歴史から）	24	援助の実際（集団援助と地域への介入）
9	福祉政策の発展過程（国内の歴史から）	25	援助の実際（行政との対峙と協働）
10	福祉サービス提供のパラダイム	26	
11	法制度の実践への影響	27	
12	社会福祉用語の言説（ナラティブ）	28	
13	政策としての福祉（レジームの比較）	29	
14	政策としての福祉（諸制度の比較）	30	後期テスト
15	前期テスト	31	
16	福祉が提供するもの・支援するもの		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、授業態度、講義中の課題の提出にもとづき評価する。

【テキスト】

講義のなかで詳細を伝える。

【参考文献】

現代社会と福祉

担当教員 知名 孝・竹藤 登

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この講義では、「社会福祉」という実践そして学問としての営みを理解するための基本的パラダイムの構築を目的とする。福祉をめぐる原理・倫理の理解、福祉政策・制度の歴史とその意味、福祉実践と制度の課題、福祉実践への関連法の与える影響などをテーマに講義を組み立てていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	社会福祉とは何か（その定義をめぐって）	17	社会福祉提供システム
2	社会福祉とは何か（専門職なのか？）	18	地域福祉のパラダイムと実践
3	福祉の思想と哲学（市場原理と福祉）	19	社会福祉基礎構造と福祉実践
4	福祉の思想と哲学（自己決定と支援の哲学）	20	福祉サービス提供の意味するもの
5	福祉政策の理論と実際（行政と福祉）	21	資源の構築に向けて
6	福祉政策の理論と実際（民間事業所と資源）	22	専門家アイデンティティの功罪
7	福祉政策の理論と実際（福祉サービス）	23	援助の実際（直接対人援助）
8	福祉政策の発展過程（国外の歴史から）	24	援助の実際（集団援助と地域への介入）
9	福祉政策の発展過程（国内の歴史から）	25	援助の実際（行政との対峙と協働）
10	福祉サービス提供のパラダイム	26	
11	法制度の実践への影響	27	
12	社会福祉用語の言説（ナラティブ）	28	
13	政策としての福祉（レジームの比較）	29	
14	政策としての福祉（諸制度の比較）	30	後期テスト
15	前期テスト	31	
16	福祉が提供するもの・支援するもの		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、授業態度、講義中の課題の提出にもとづき評価する。

【テキスト】

講義のなかで詳細を伝える。

【参考文献】

行動療法

担当教員 上田 幸彦

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、世界的に最も用いられることが多く、その効果も科学的に実証（エビデンス・ベースド）されている。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉においても適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法の歴史
2	行動療法・認知行動療法の適用範囲・事例
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法：系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法：リラクゼーション法
7	暴露反応妨害法・事例
8	応用行動分析・事例
9	社会的学習理論：モデリング、ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法② 16回目にテストを行う。
16	

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義のねらいは、まず、高齢者の特性を理解し、高齢者を取り巻く社会環境と問題点を理解する。次に、高齢者保健福祉施策と高齢者支援のための関係法規を習得する。さらには、2000年にスタートした介護保険制度について理解し、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス	17	介護保険制度① 全体像 改正介護保険法
2	高齢者を理解する① 身体と心の変化	18	介護保険制度② 改正介護保険法
3	高齢者を理解する② 高齢者の生活	19	介護保険制度③ 要介護認定のプロセス
4	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	20	介護保険制度④ 要介護認定のプロセス
5	高齢者保健福祉制度①	21	介護保険制度⑤ サービス体系 居宅
6	高齢者保健福祉制度②	22	介護保険制度⑥ サービス体系 居宅
7	高齢者支援の関係法規① 老人福祉法	23	介護保険制度⑦ サービス体系 施設
8	高齢者支援の関係法規② 高齢者医療確保法	24	介護保険制度⑧ サービス体系
9	高齢者支援の関係法規③ 高齢者虐待防止法	25	介護保険制度⑨ 介護予防サービス
10	高齢者支援の関係法規④ その他関係法規	26	介護保険制度⑩ 地域支援事業
11	認知症を知ろう① アルツハイマー？治る？	27	介護保険制度⑪ 地域密着型サービス
12	認知症を知ろう② 予防ってできるの？	28	介護保険制度⑫ 社会資源連携
13	高齢者の孤立① 地域で孤立する高齢者？	29	介護保険制度⑬ 社会資源連携
14	高齢者の孤立② 孤立死は増えている？	30	後期振り返り
15	前期講義内容の確認と解説	31	
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本講義はわが国における高齢社会および高齢者を取り巻く現状を十分に理解することができる。単に受験資格科目としてではなく、高齢者を知る、高齢社会を知る、介護保険制度を知るという今高齢社会に生きる国民の基本的な知識を身につけるといふ認識で受講してもらいたい。

【評価方法】

前期、後期に実施する試験によって評価する。なお、出席状況も評価の対象とする。

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規 社会福祉士養成講座

【参考文献】

「国民衛生の動向」「高齢社会白書」などを参考書として指定するが、その他については講義の中で随時紹介する。

国際関係論

担当教員 ダグラス ラミス

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

現在の国際関係は、いくつかの前提の上に成り立っている。そしてそれらは、「前提」である以上、あまり議論・疑問・検証の対象にはならない。この授業では、それぞれの前提を取り上げて、改めて考えたい。

【授業の展開計画】

- 1) 趣旨の説明
- 2) 国家と「正当暴力の独占」[1]
- 3) 国家と「正当暴力の独占」[2]
- 4) 国際法と「正戦論」[1]
- 5) 国際法と「政戦論」[2]
- 6) 「終わった」「植民地主義・帝国主義」[1]
- 7) 「終わった」「植民地主義・帝国主義」[2]
- 8) 「終わった」「植民地主義・帝国主義」[3]
- 9) 「万能薬」としての経済発展
- 10) 「万能薬」としての経済発展
- 11) 「非現実的な」非暴力抵抗[1]
- 12) 「非現実的な」非暴力抵抗[2]
- 13) 「非現実的な」非暴力抵抗[3]
- 14) まとめ：[普通の国]とはなにか[1]
- 15) まとめ：[普通の国]とはなにか[2]

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

学期末試験（試験は参考文献を読んだという前提に作成する。）

【テキスト】

ダグラス ラミス『経済成長がなければ私たちはゆたかになれないのだろうか』（平凡社、2000年）/ ガンジー『真の独立—ヒンド・スワージ』（岩波文庫、2001年）/ ダグラス ラミス『普通の国になりましょう』（大月書店、2007年）

【参考文献】

プリント配布：「暴力国家」（ラムス『憲法と戦争』晶文社2000年より）
「正戦論」（同上） 「帝国を設けて、なにが悪いのか」（野村浩也、他『植民者へ』（松籟社2007年より）

国際ソーシャルワーク論

担当教員 徳元 貴子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国連の機構と活動

担当教員 高嶺 豊

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

子どもメンタルヘルス福祉実践論

担当教員 知名 孝・他

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

相談支援業務が委託事業となり、地域の相談支援専門員が家族と子どもの問題に対峙する機会が増え、ソーシャルワーカーとして子どもや家族の問題へのアセスメントや介入への視点を持つことが必要とされている。この講義では、i)発達理論・視点、ii)子どもが育ち・生きる権利と社会、iii)アセスメントから資源への繋ぎ・介入までの支援プロセス について、オムニバス方式による事例検討を中心に学習をすすめていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	児童思春期の精神保健福祉実践総論 1 (地域支援を必要とする子ども達の問題)
2	児童思春期の精神保健福祉実践総論 2 (地域支援のための発達論)
3	子どもの問題のアセスメント (面接・家族アセスメント・心理アセスメントについて)
4	地域支援ワーカーの実践1 (社会福祉士の実践)
5	地域支援ワーカーの実践2 (医療ワーカーの実践)
6	親のための心理教育プログラムの実践 (プログラム実践の体験を通して)
7	保護者のストレス・マネジメントプログラムの実践 (プログラム実践の体験を通して)
8	子ども版・学校版SSTの展開 (プログラム実践の体験を通して)
9	TEACCH (ティーチ) プログラムの実践 (TEACCHプログラムと地域支援)
10	「虐待・DV介入」と地域支援 (児相ワーカーの実践)
11	「ニート・引きこもり」と地域支援 (若者自立塾の実践)
12	地域支援に求めるものー児童精神科医から (児童思春期精神科医の実践)
13	地域支援に求めるものー学校の立場から (学校教員の実践)
14	地域支援に求めるものー司法矯正から (家裁・保護観察所・少年鑑別所の実践)
15	親の「語り」からーエンパワーメントの軌跡 (まとめー親の会代表との対話から)
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、講義中の討論への参加、試験などにもとづき評価を行う。

【テキスト】

講義のなかであらためて指定する。

【参考文献】

コミュニティ心理学

担当教員 大嶺 和歌子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

- ①我々の生活で起きる問題をコミュニティという枠組みで捉えるコミュニティ心理学を紹介する。
 ②社会的文脈に人間存在を位置づけることで、人が本来もっている強さとコンピテンスを重視する。エンパワメント等を紹介し、問題解決への選択肢を拡げることがを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	コミュニティ心理学とは何か：コミュニティ心理学の定義
3	人と環境の適合－生態学的アプローチ：様々な理論の紹介
4	予防①：予防の種類・事例「いじめ」
5	予防②：事例「介護スタッフのバーンアウトの予防」・予防の倫理的問題
6	ストレスとコーピング
7	危機介入とコンサルテーション①：危機介入
8	危機介入とコンサルテーション②：コンサルテーション
9	ソーシャルサポートとセルフヘルプ①：ソーシャルサポート
10	ソーシャルサポートとセルフヘルプ②：セルフヘルプ
11	エンパワメント：定義と批判
12	コミュニティ感覚と市民参加：コミュニティ感覚
13	コミュニティ感覚と市民参加：市民参加
14	理論と実践の連携
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

教科書必携

【評価方法】

期末テストを70点配分で行い、出席30点配分と合算して評価を行う。評価＝出席（30点）＋期末テスト（70点）
 出席は一言カードの提出で確認する。
 一言カードは授業開始前に配布し、その日の授業内容にちなんだ課題を記入し提出してもらう。
 テストは客観式テストを行う。

【テキスト】

植村勝彦 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

社会心理学 I

担当教員 大嶺 和歌子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

- ①社会心理学の分野で扱われている主要な研究、研究者、重要な理論を紹介する。
- ②日常的な現象や事件等と密接に関連する社会心理学の知識を紹介する。
- ③社会心理学の事象の捉え方、考え方について扱い、科学的な思考や多面的に事象を把握する力を養成する。

【授業の展開計画】

- 1週 オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
- 2週 自己
- 3週 パーソナリティ
- 4週 対人認知
- 5週 社会的認知
- 6週 説得と態度変化
- 7週 攻撃と社会的勢力
- 8週 援助行動
- 9週 ソーシャル・サポート
- 10週 魅力と対人関係
- 11週 非言語的コミュニケーション
- 12週 対人葛藤と交渉
- 13週 社会的公正
- 14週 時間的展望
- 15週 予備日
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・教科書必携

【評価方法】

期末テストを70点配分で行い、出席30点配分と合算して評価を行う。

評価＝出席（30点）＋期末テスト（70点）

出席は一言カードの提出で確認する。

一言カードは、授業開始前に配布し、その日の授業内容にちなんだ課題を記入し、提出する。

テストは客観式テストを行う。

【テキスト】

社会心理学 I・II 共に使用する。

潮村公弘・福島治 社会心理学概説 北大路書房

【参考文献】

岡本浩一 著 「社会心理学ショート・ショート」 新曜社 / E.アロンソン 著 「ザ・ソーシャル・アニマル」 サイエンス社 / セレクション社会心理学シリーズ サイエンス社 その他、講義中に適宜紹介する

社会心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 和歌子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

- ①社会心理学の分野で扱われている主要な研究、研究者、重要な理論を紹介する。
- ②日常的な現象や事件等と密接に関連する社会心理学の知識を紹介する。
- ③社会心理学の事象の捉え方、考え方について扱い、科学的な思考や多面的に事象を把握する力を養成する。

【授業の展開計画】

- 1週 オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
- 2週 集団とアイデンティティ
- 3週 集団過程
- 4週 社会化
- 5週 家族とジェンダー
- 6週 社会的ジレンマ
- 7週 組織
- 8週 宗教
- 9週 文化的価値
- 10週 情報と社会的ネットワーク
- 11週 ボランティア活動
- 12週 非行と更生
- 13週 社会的適応
- 14週 コミュニティ心理学
- 15週 予備日
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・教科書必携
- ・社会心理学Ⅰを履修後の取得が望ましい

【評価方法】

期末テストを70点配分で行い、出席30点配分と合算して評価を行う。

評価＝出席（30点）＋期末テスト（70点）

出席は一言カードの提出で確認する。

一言カードは授業開始前に配布し、その日の授業内容にちなんだ課題を記入し、提出する。

テストは客観式テストを行う。

【テキスト】

社会心理学Ⅰ・Ⅱ共に使用する。

潮村公弘・福島治 社会心理学概説 北大路書房

【参考文献】

岡本浩一 著「社会心理学ショート・ショート」新曜社/E.アロンソン 著「ザ・ソーシャル・アニマル」サイエンス社/セレクション社会心理学シリーズ サイエンス社 ※その他、講義中に適宜紹介する

社会調査の企画と設計

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらおう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会統計学 I

担当教員 宮国 忠広

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義は、社会調査のデータに関して、基本的な統計的分析を行なうための技術を身につけることが主な目的である。社会調査には、様々な種類があるが、調査の「仮説」の検定によって、「因果推論」を行う考察力を養い、統計的分析を用いた実際の分析例に数多く触れることで、統計的分析を通して社会現象の背後にある因果関係を解明することも講義の目標となる。例えば、開票率0%の段階で、なぜ、テレビの選挙速報で「当確」が出るのか。福祉の領域で担う社会統計とは。様々な事例を紹介しながら、統計データを読み解く。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション（本講義の目的と概要・他の講義との関連・スケジュール紹介）
2. 統計解析の基本を押さえてみよう
（社会調査で「何」を探るのか、統計によって「何」が明らかになるのか）医療・介護・福祉・保健の分野で用いられる社会統計について
3. 確率論の基礎（統計の基礎となる確率・「確率変数」＝偶然に支配された「現象」）
4. 確率論の基礎・その2（二項分布の変化と正規分布＝誤差分布について）
5. 度数分布とは何か（各カテゴリーの回答者数について）
6. 代表値とは何か（分布の中心位置について考察・分析できること）
7. 範囲と標準偏差（分布の「ばらつき」からデータの性質を探ろう）
8. 歪度と尖度（集計データのグラフから、イメージを読み取ってみよう）
9. カイ2乗検定について・その1（クロス集計表でグループ間に差があるかないかを統計的に判断）
10. カイ2乗検定について・その2（適合度の検定と独立性の検定）
11. t検定と分散分析とは（平均値の差の検定・有意差を統計的に判断する）
12. 相関係数について（2つの変数から何が分かるのか）
13. 単回帰とは（相関関係を1次式で表現し「予測」に用いる手法・相関係数散布図と単回帰式の組み合わせ）
14. シグマ値法（各カテゴリーの得点化・カテゴリーの換算点）
15. 本講義のまとめ（レポート提出）

【履修上の注意事項】

PC・エクセルを使用する場合があります

【評価方法】

出席・受講態度・期末試験（レポート）を総合的に評価

【テキスト】

酒井隆著『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003年10月1日
金子治平 上藤一朗著『よくわかる統計学 I』ミネルヴァ書房、2007年10月20日（以上は参考文献）

【参考文献】

適宜、プリント等を配布する。また、USBフラッシュメモリーでデータを提供する（USBメモリーは各自持参）

社会統計学Ⅱ

担当教員 宮国 忠広

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「社会統計学Ⅰ」の講義内容を踏襲し、社会統計学のメインとなる「多変量解析法」について学習する。統計分析における基本的な考察方法と計量モデルを分かり易く解説していく。基本となる「重回帰分析」の理論、技術的な方法を学習しながら、他の計量モデルを参考にし、社会統計学の「量的」意味合いを考察・検討していく講義の内容とする。また、これら量的調査が、どのような福祉分野領域で用いられるのかを考察していく。

【授業の展開計画】

1. 「社会統計学Ⅰ」で学習した内容を再考察
2. 多変量解析の種類について（基準変数解析・相互依存変数解析・その他）
3. 重回帰分析・その1（将来予測）
4. 重回帰分析・その2（関連性の説明）
5. プロビット分析について（0から1の間の比率とは）
6. 数量化Ⅰ類について（広告注目率予測モデル式に使われる解析手法）
7. コンジョイント分析（新製品コンセプトのマーケティング）
8. 判別分析（ヘビーユーザーとライトユーザー）
9. ロジスティック回帰分析（医療の領域で開発されたリスク要因の解析手法）
10. 数量化Ⅱ類（カテゴリーデータを用いて判断しよう）
11. 因子分析について（消費者の心理とイメージ）
12. クラスタ分析について（多変量解析結果から活用まで）
13. 共分散構造分析（因果関係のモデル化・パス解析モデルと因子分析）
14. 階層化意思決定分析法（AHP）・本講義のまとめ
15. テスト（レポート提出）

【履修上の注意事項】

PC・エクセルを使用する場合がある。

【評価方法】

出席・受講態度・期末試験（レポート）を総合的に評価

【テキスト】

酒井隆著『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003年10月1日
金子治平 上藤一郎著『よくわかる統計学Ⅰ』ミネルヴァ書房、2007年10月20日（以上は参考文献）

【参考文献】

適宜、プリント等を配布する。また、USBフラッシュメモリーでデータを提供する（USBメモリーは各自で持参）

社会病理学

担当教員 座間味 宗治

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員 -宮城 美智子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 6.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

①「障害」とはいったい何かについて考える ②障害者がたどった歴史について理解を深める ③障害者福祉の理念について理解を深める ④障害者を対象にした法律の変遷を理解すると共に、知識を広める ⑤障害児者が日々の生活の中で直面する問題（教育、雇用、移動、経済的保障、社会参加など）についてその原因と課題について考える ⑥障害当事者の視点から社会福祉サービスを再考する ⑦沖縄の視点から障害者福祉を考える ⑧途上国の障害者福祉について理解を深める

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者福祉の理念
2	障害者福祉の歴史
3	障害の定義：ICF、障害の社会モデル、国内法を中心に
4	自立生活とは
5	障害者福祉施策の概要（1）
6	障害者福祉施策の概要（2）
7	諸外国の障害者福祉施策の概要
8	国際連動の動向
9	障害者の生活と社会福祉施策の課題（1）
10	障害者の生活と社会福祉施策の課題（2）
11	障害者の生活と社会福祉施策の課題（3）
12	障害者の生活と社会福祉施策の課題（4）
13	障害者の生活と社会福祉施策の課題（5）
14	障害者運動の主張と政策への影響
15	障害と開発
16	

【履修上の注意事項】

障害者福祉の基盤となる定義や理念を理解することに努めること。

配布資料や参考文献をしっかりと読むこと。

授業と並行して、積極的にボランティア活動に参加したりメディア情報にアクセスしたりすることを勧める。

【評価方法】

- ①定期試験および課題レポートの内容
- ②授業態度および出席状況
- ③その他、ビデオ鑑賞の後に提出してもらう感想など

【テキスト】

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」（最新版）、中央法規
 「障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉入門」（2008）、ミネルヴァ書房

【参考文献】

第1回講義時に提示する

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業は後期に開講予定の発達臨床心理学の前段階として、障害児(者)の心理学的な特徴について概説する。授業では単一の障害に限定せず、障害種別に心理学的特徴について講義を行う。

【授業の展開計画】

- 第 1回：オリエンテーション
- 第 2回：障害をどのように捉えるか
- 第 3回：障害の原因・病理
- 第 4回：受容機能の障害と心理特性 (1) 視覚障害
- 第 5回：受容機能の障害と心理特性 (2) 聴覚障害
- 第 6回：表出機能の障害と心理特性 (1) 運動障害
- 第 7回：表出機能の障害と心理特性 (2) 言語障害
- 第 8回：処理機能の障害と心理特性 (1) 知的障害 1
- 第 9回：処理機能の障害と心理特性 (2) 知的障害 2
- 第10回：処理機能の障害と心理特性 (3) 学習障害
- 第11回：処理機能の障害と心理特性 (4) 注意欠陥／多動性障害
- 第12回：処理機能の障害と心理特性 (5) 自閉症 1
- 第13回：処理機能の障害と心理特性 (6) 自閉症 2
- 第14回：処理機能の障害と心理特性 (7) 自閉症 3
- 第15回：授業のまとめ
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび発表や提出されたレポートにより評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは参加状況に関する評価は低いことを理解しておいて欲しい。また、予習課題を十分に理解した上で授業を受け、毎回の授業で実施する小テストは評価の際に大きなウェイトを占めることを了解して欲しい。なお、遅刻や欠席がないことを前提としているので、何らかの事情でやむを得ず欠席する場合は事前に届けること。

【テキスト】

特別支援児の心理学 梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義編著 北大路書房 ¥2,500+税

【参考文献】

障害児の心理 佐藤泰正編著、学芸図書株式会社 ¥2,000+税
障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス 鼻地勝人他編 ナカニシヤ出版 ¥2,800+税

神経心理学

担当教員 前堂 志乃

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

神経心理学とは、人の認知過程（機能—ソフト）とその基礎となる脳（構造—ハード面；脳自体には機能と構造があります）を関連づけて理解することを通して、人の心理過程への理解をより深めていこうとする心理学の中の領域の一つです。本講義でも、心理学の分野で扱われる認知過程の問題と脳科学によって明らかにされつつある知識とを対応させ、こころと脳について理解を深めていく。自分に最も身近だけれど、「脳」も「こころ」もまだ本当には分からないことがいっぱいです。分からないことを楽しみつつ、神経心理学に親しんで欲しい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学基礎演習

担当教員 前堂 志乃

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義は、心理学の領域で研究を行う上で必要な研究法とその手続き、及び研究結果をまとめた報告書の書き方の基本を身に付けることを目的とする。具体的には、観察法、実験法、検査法、質問紙法を取り入れた基礎的な実験・実習（基礎実習と呼ぶ）を複数行い、毎回の実習において、データを収集・分析し、報告書にまとめる作業を行う。3年のゼミ活動、卒論作成と深く関わる科目なのでそのことを念頭に主体的に参加して欲しい。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出する、形式からなる。

前期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 個別ゼミ（基礎実習とは）
3. 個別ゼミ（心理学研究法とは）
4. 個別ゼミ（基礎実習報告書の書き方）
5. 実習①（訓練の転移）×2週間
6. 個別ゼミ（レポートの添削フィードバック）
7. 実習②（行動観察）×2週間
8. 実習③（錯視量の測定）×2週間
9. 実習④（二点閾弁別）×2週間
10. 個別ゼミ（フィードバック）

後期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 実習⑤（社会心理学的実験）×2週間
3. 実習⑤-1（質問紙とは）×1週間
4. 実習⑤-2（質問紙の作成）×1週間
5. 実習⑤-3（質問紙作成の実際：Q&A）×1週間
6. 個別ゼミ（質問紙の作成から実施、データの分析・結果のまとめ）×7週間
7. 合同ゼミ（調査結果発表会）
8. 個別ゼミ（フィードバック）

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、5ゼミ合同で行う場合や各ゼミで行う場合がある。さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行うため、5ゼミ生全員が5名の担当教員の授業や指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 平山 篤史

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義は、心理学の領域で研究を行う上で必要な研究法とその手続き、及び研究結果をまとめた報告書の書き方の基本を身に付けることを目的とする。具体的には、観察法、実験法、検査法、質問紙法を取り入れた基礎的な実験・実習（基礎実習と呼ぶ）を複数行い、毎回の実習において、データを収集・分析し、報告書にまとめる作業を行う。3年のゼミ活動、卒論作成と深く関わる科目なのでそのことを念頭に主体的に参加して欲しい。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出する、形式からなる。

前期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 個別ゼミ（基礎実習とは）
3. 個別ゼミ（心理学研究法とは）
4. 個別ゼミ（基礎実習報告書の書き方）
5. 実習①（訓練の転移）×2週間
6. 個別ゼミ（レポートの添削フィードバック）
7. 実習②（行動観察）×2週間
8. 実習③（錯視量の測定）×2週間
9. 実習④（二点閾弁別）×2週間
- 10.

後期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 実習⑤（検討中）×2週間
3. 実習⑤-1（質問紙とは）×1週間
4. 実習⑤-2（質問紙の作成）×1週間
5. 実習⑤-3（質問紙作成の実際：Q&A）×1週間
6. 個別ゼミ（質問紙の作成から実施、データの分析・結果のまとめ）×7週間
7. 合同ゼミ（調査結果発表会）
8. 個別ゼミ（フィードバック）

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、心理学の5つのゼミ合同で行う場合や個別で行う場合がある。さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行うため、5ゼミ生全員が、5名の担当教員の授業や指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会を開催し、そこでの発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 上田 幸彦

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義は、心理学の領域で研究を行う上で必要な研究法とその手続き、及び研究結果をまとめた報告書の書き方の基本を身に付けることを目的とする。具体的には、観察法、実験法、検査法、質問紙法を取り入れた基礎的な実験・実習（基礎実習と呼ぶ）を複数行い、毎回の実習において、データを収集・分析し、報告書にまとめる作業を行う。3年のゼミ活動、卒論作成と深く関わる科目なのでそのことを念頭に主体的に参加して欲しい。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出する、形式からなる。

前期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 個別ゼミ（心理学研究法とは）
3. 個別ゼミ（基礎実習報告書の書き方）
4. 実習①（錯視量の測定）3週間
5. 個別ゼミ（フィードバック）
6. 実習②（2点閾の測定）3週間
7. 実習③（行動観察）3週間
8. 実習④（訓練の転移）3週間

後期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 実習④（社会心理学的実験）3週間
3. 実習⑤-1（質問紙とは）1週間
4. 実習⑤-2（質問紙の作成）1週間
5. 実習⑤-3（質問紙作成の実際：Q&A）1週間
6. 個別ゼミ（質問紙の作成から実施、データの分析・結果のまとめ）6週間
7. 合同ゼミ（調査結果発表会）
8. 個別ゼミ（フィードバック）

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、4ゼミ合同で行う場合や2ゼミずつで行う場合がある。さらに、4ゼミ全てが同じ内容の実習を行うため、4ゼミ生全員が4名の担当教員の授業や指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 井村 弘子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習は、心理学の領域で研究を行う上で必要な研究法とその手続き、研究結果や考察をまとめた報告書の書き方などの基本を身に付けることを目的とする。具体的には、観察法、実験法、検査法、質問紙法を取り入れた基礎的実験・実習（基礎実習と呼ぶ）を複数行い、毎回の実習において、データを収集・分析し、報告書にまとめる作業を行う。3年のゼミ活動、4年の卒論作成と深く関わる科目なので、主体的に参加して欲しい。

【授業の展開計画】

個別ゼミと、合同ゼミ、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験する実習形式からなる。

前期

1. 合同ゼミ（全体オリエンテーション）
2. 個別ゼミ（心理学研究法とは）
3. 個別ゼミ（基礎実習報告書の書き方）
4. 実習①-1（行動観察）
5. 実習①-2（行動観察）
6. 個別ゼミ（レポートの添削フィードバック）
7. 個別ゼミ（レポートの添削フィードバック）
8. 実習②-1（錯視量の測定）
9. 実習②-2（錯視量の測定）
10. 実習③-1（二点閾の測定）
11. 実習③-2（二点閾の測定）
12. 実習④-1（社会心理学的実験）
13. 実習④-2（社会心理学的実験）
- 14～16. 個別ゼミ（質疑応答・レポート最終提出）

後期

1. 実習⑤-1（訓練の転移）
2. 実習⑤-2（訓練の転移）
3. 合同ゼミ（質問紙法オリエンテーション）
4. 実習⑥-1（質問紙とは）
5. 実習⑥-2（質問紙の作成）
6. 実習⑥-3（質問紙作成の実際；Q&A）
- 7～10. 実習⑥-4～7（質問紙の作成から実施、データの分析・結果のまとめ）
11. 合同ゼミ（心理学基礎演習発表会）
- 12～16. 個別ゼミ（質疑応答・レポート最終提出）

【履修上の注意事項】

- ・この演習は個別ゼミや5ゼミ合同で行う場合がある。全員が同じ内容の実習を行うため、5名の担当教員の指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成する予定である

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版

【参考文献】

松浦均・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 3「観察法・調査的面接法の進め方」ナカニシヤ出版
中澤・大野木・南（編著）心理学マニュアル「観察法」北大路書房

心理学基礎演習

担当教員 山入端 津由

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

これまで学んだ心理学の知識がどのような方法で導き出されたかについて学ぶ。つまり、心理学の各領域で用いられている主要な研究法の基本を学ぶ。具体的には、観察法、実験法、検査法と背景にある心理学理論について学習する。それを受けて、実際にこれらの方法を用いて実験や調査を行い、データを処理・分析し、レポートする演習を行う。これらの結果について発表を行い、公共性のある研究を目指すためのノウハウを学習する。これらの学習結果は、3学年の心理学演習や4学年の卒業論文作成につなげるようにする。

【授業の展開計画】

講義形式は2種類

前期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 個別ゼミ 「基礎実習とは何か」
- 3 個別ゼミ 「心理学研究法とは何か」
- 4 個別ゼミ 「基礎実習報告書の書き方」
- 5 基礎実習① 「訓練の転移」 (×2週間)
- 6 個別ゼミ 「レポートの添削フィードバック」
- 7 基礎実習② 「行動観察」 (×2週間)
- 8 基礎実習③ 「錯視量の測定」 (×2週間)
- 9 基礎実習④ 「二点閾弁別」 (×2週間)
- 10 個別ゼミ 「フィードバック」

後期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 基礎実習⑤ (検討中) (×2週間)
- 3 基礎実習⑤-1 「質問紙とは」
- 4 基礎実習⑤-2 「質問紙の作成」
- 5 基礎実習⑤-3 「質問紙作成の実際：Q&A」
- 6 個別ゼミ 「質問紙の作成、実施、データ分析、結果のまとめ」 (×7週間)
- 7 個別ゼミ 「調査結果発表会」
- 8 個別ゼミ 「フィードバック」

【履修上の注意事項】

本基礎演習は、4ゼミ合同で行う場合や2ゼミずつで行う場合など多様な形態がある。また、4ゼミ生全てが同じ内容の実習を行うため、4ゼミ生全員が4名の担当教員の授業や指導を受ける形式となっている。実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。基礎実習を行うために、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成を行う予定である。

【評価方法】

①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは、初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介を行う。

心理学研究法 I

担当教員 中村 完

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

心理学を研究していく手順や方法についての基礎的知識と技法について学習する。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた研究法についての理論と技法について概説する。また、時代の変化に対応して多様化する人間行動を考慮し、他方では日進月歩の技術革新によって進展する心理学的解析法を念頭に入れて、心理学の新しい研究法の開発に向けて、その動機づけの高揚につながる事も論述したい。

【授業の展開計画】

- 第 1回 コースのオリエンテーション、心理学とは
- 第 2回 行動の科学について、行動の法則性について
- 第 3回 心理学研究の過程（手順）、心理学研究に向けての学習法
- 第 4回 行動観察法（意義、方法、留意点等）
- 第 5回 面接法（意義、種類、この方法の過程、特色、留意点等）
- 第 6回 心理テスト法①（意義、心理テストの種類等）
- 第 7回 心理テスト法②（心理テストの特徴、利用法等）
- 第 8回 質問紙調査法（意義、手順、尺度の妥当性、信頼性等）
- 第 9回 実験法①（意義、実験計画法、変数、関数関係、因果関係等）
- 第10回 実験法②（実験法の実際等）
- 第11回 相関的研究法①（意義、内容、相関係数、 χ^2 検定）
- 第12回 相関的研究法②（長所と短所、この研究法の実際等）
- 第13回 事例研究法（意義、方法、特徴等）
- 第14回 新しい研究法の開発（行動の多様化、新たな行動障害、解析法の進展、学際的研究等）
- 第15回 学期末テスト

【履修上の注意事項】

心理学の基礎科目を履修済みであることがのぞましい。

【評価方法】

受講態度、レポート、試験等から総合的に行う。

【テキスト】

高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一（編著）「人間科学研究法ハンドブック」 ナカニシヤ出版、1998年

【参考文献】

1. 高野陽太郎・岡隆（編）「心理学研究法」 有斐閣、2004年
2. 原岡一馬（著）「心理学研究の基礎」 ナカニシヤ出版、2002年

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、心理学の領域で研究を進める上で必要な研究の手法と手続きの基本的な事項について概説することを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となる実験的手法と卒論などでもっとも用いられることの多い質問紙法を取り上げながら、心理学の手法で研究するということについて理解を深めていく。さらに、できるだけ具体的に研究テーマの設定、研究計画の策定と吟味と、研究の具体化と、報告書の執筆という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについて考えていく予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	心理学研究法の基礎知識①
3	心理学研究法の基礎知識②
4	研究する意味
5	研究テーマの選定・設定
6	研究計画の策定
7	研究計画の吟味と具体化
8	実験法①
9	実験法②
10	実験法③
11	質問紙法①
12	質問紙法②
13	研究成果の報告①
14	研究成果の報告②
15	研究のつながりと楽しみ・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

心理学研究法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：研究法に関連する課題をいくつか課す
 期末試験：学期末に論述式の試験を行う（予定）
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

初回の講義時に紹介する予定

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学史

担当教員 上田幸彦・井村弘子・前堂志乃・平山篤史

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

一口に心理学といっても、その裾野は大変幅広く、様々な専門領域に分化している。この講義では、心理学がどのような歴史を経て、学問体系を作り上げ、確立してきたか、また、どのように分化し、発展してきたのか学ぶことを目的とする。本専攻で開講されている様々な心理学の専門科目が、心理学全体の中にどのような位置づけられているのか体系的に整理し、心理学に対する更なる興味を高める上でも本講義は意義深い。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 心理学史の方法論
3. 19世紀の心理学①
4. 19世紀の心理学②
5. 20世紀の3大潮流①
6. 20世紀の3大潮流②
7. 20世紀の3大潮流③
8. 心理学と社会①
9. 心理学と社会②
10. 日本の心理学史①
11. 日本の心理学史②
12. 心理学史の見方
13. 心理学史の現状と展望
14. まとめⅠ
15. まとめⅡ
16. 試験

【履修上の注意事項】

この講義は5人の教員によるオムニバス形式をとる。受講生が多いときは高学年を優先して抽選する。テキストを購入し、講義で指示された箇所を予習して講義に望んでください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

「流れを読む心理学史—世界と日本の心理学」(有斐閣アルマ)

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に前期では人間の知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション /心理アセスメントとは
- 2 心理アセスメントと心理検査
- 3 心理検査と倫理問題
- 4 田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査
- 5 知能とは ・ 検査器具の取り扱いと実施 ・ 実習前試験
- 6 ウェクスラー式知能検査の実施
- 7 ウェクスラー式知能検査の結果の整理
- 8 ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
- 9 ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
- 10 田中ビネー式知能検査の実施
- 11 田中ビネー式知能検査の結果の整理
- 12 田中ビネー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
- 13 田中ビネー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
- 14 まとめ 人を理解するという事
- 15 予備日

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 /WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、心理学関連論文を読みとり、自ら実施した調査研究のデータ解析ができることを目指す。このためコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとり方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 登録、モノサシについて
- 2 週目 モノサシとデータ
- 3 週目 データの変換
- 4 週目 データのグラフ化
- 6 週目 度数分布表とヒストグラム
- 7 週目 記述統計
- 8 週目 実技テスト2 (記述統計ほか)
- 9 週目 相関係数と散布図 (ピアソンの偏差積率相関)
- 10 週目 回帰分析
- 11 週目 正規分布
- 12 週目 t-分布
- 13 週目 カイ二乗分布
- 14 週目 F分布
- 15 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
後期に開講する心理統計学IIも履修すること。

【評価方法】

出席15%、課題25%、実技30%、テスト30%の比率で評価する。

【テキスト】

室 淳子、石村貞夫 2006 『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』 東京図書 ￥2,500+税

【参考文献】

特になし

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、仮説検定を中心にコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとりと解釈、考察の仕方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 登録・ガイダンス、診断テスト
- 2 週目 仮説と誤り
- 3 週目 t 検定 (1)
- 4 週目 t 検定 (2)
- 5 週目 t 検定 (3)
- 6 週目 分散分析 (1)
- 7 週目 分散分析 (2)
- 8 週目 分散分析 (3)
- 9 週目 カイ二乗検定 (1)
- 10 週目 カイ二乗検定 (2)
- 11 週目 カイ二乗検定 (3)
- 12 週目 重相関係数と多変量回帰分析
- 13 週目 因子分析／主成分分析
- 14 週目 クラスタ分析
- 15 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

心理統計学Ⅰを履修していること。

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。

遅刻・欠席をしない。

心理統計学Ⅰを履修済みであること。

【評価方法】

出席15%、課題25%、実技30%、テスト30%の比率で評価する。

【テキスト】

小塩 真司 2004 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書
00+税

¥2,8

【参考文献】

特になし

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実態等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション・授業の説明
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑨子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑫子ども家庭への援助活動 その1
- ⑬子ども家庭への援助活動 その2
- ⑭振り返り
- ⑮テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているので、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられませんので、注意するようにして下さい。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(2009)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』、中央法規(定価 ¥2,200+税)。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(各年版)：『社会福祉小六法』、ミネルヴァ書房、(定価¥1,600+税)

人格心理学

担当教員 稲嶺 真実子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

人格形成において発達的な諸要因について概観することにより、人間に対しての興味を深め、他者理解や自らの生き方に活かしていくようにする。また、実習（性格テスト・エンカウンター）などをとおして、自己理解を深め、更なる自己成長の手がかりとなる機会として欲しい。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 人格の定義と研究の歴史
- 3 人格理論
- 4 類型論と特性論
- 5 人格の発達
- 6 人間のライフサイクル
- 7 家族関係と性格
- 8 人間関係と性格
- 9 制約割りと性格
- 10 遺伝と性格
- 11 パーソナリティと文化
- 12 問題行動と性格
- 13 不適応と病理 1
- 14 不適応と病理 2
- 15 性格の変容
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

基本的には講義形式であるが、一方的な授業でなくワークやグループディスカッション等も取り入れていくので、主体的な参加を期待する。また、オリエンテーションには必ず参加すること。

【評価方法】

出席、小レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

『新心理学ライブラリー 性格心理学への招待 [改訂版] 自分を知り他者を理解するために』 詫間武俊 編
著 サイエンス社

【参考文献】

人体の構造と機能及び疾病

担当教員 鈴木 信

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

1. 身体の仕組み（解剖）と働き（生理）を理解した上に系統臓器別に主な疾病についての知識を得る。2. 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の受験のための資格科目であるため、国家試験受験に必要な知識を修得して、国家試験に備える。3. MSW、PSW、臨床心理士に最も基礎になる知識であるから、福祉・心理の専門科目を履修するために身体についての基礎知識の修得は必須である。4. 高校の保健福祉の教師を目指す者にも必須科目である。

【授業の展開計画】

1. 教育効果を高めるために、グループ学習を計画しているので人数を制限して学習意欲の低い学生を除外する。その意味で事前にアンケートを取って、96名以下に限定する。（できれば48名）
2. 中学・高校で保健を習得した知識を思い出させるために、系統臓器別の身体の仕組みと働きについての資料を配布し、授業の前に予習をしてもらうこと。
3. 身体の仕組みと働きについて個別に質問して理解度チェックし、不足ないし、誤解している箇所を補填する。（20分）
4. ついで登録時に割り当てたテーマについて一人5分に限定して発表させ、数分のディスカッションを行う。（50分）
5. 授業終了前10分をコメント時間にあて、200字以内でコメントを書かせて提出させる。（10分）
6. 次回の授業の最初の10分とコメントに書かれた質問に対しての回答にあてる（10分）

【履修上の注意事項】

1. 必ず予習をしてもらうこと。2. 毎回コメント用紙を授業開始時に配布し、終了時に提出する。3. コメント用紙を回収し土にする。4. 授業開始時20分以内でコメント用紙を手渡すが、20分以降の遅刻者は欠席とする。5. 欠席者は公認の欠席届を一週以内に提出する。無断で欠席は-1.0点、公欠は約-0.5点。6. 欠席者は1週以内に自製のコメントを提出する。7. 事情によっては欠席点、コメント点の減点を少なくする。8. 公認の欠席届けがないと無断欠席とみなし、±1、欠席の場合、コメント用紙の提出がないとコメント点も-1点。

【評価方法】

・発表点 20点 ・出席点 20点 ・コメント点 20点 ・予習による評価、質問等への参加 20点
 ・テスト点 20点
 1～4の項目（出席、発表、討論）で80点を獲得し者はテストを免除する。なお、遅刻は4回をもって1回欠席とする。

【テキスト】

【参考文献】

- 1 配布した資料 3 社会福祉士養成講座「医学一般」
- 2 医療科学 4 新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「スクールソーシャルワーク(以下、SSW)論」では、今日の学校現場の抱える課題とスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)を導入する意義、その必要性等について理解を深める。また、米国をはじめとする海外のSSWrの役割と活動について学ぶとともに、その実践モデル、スーパービジョンの必要性に関して理解する。そして最後に、アセスメントとケース検討会について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的等
2	今日の学校現場が抱える課題とSSWrを導入する意義 その1
3	今日の学校現場が抱える課題とSSWrを導入する意義 その2
4	SSWの歴史(日本)
5	海外のSSWrの役割と実践 その1
6	海外のSSWrの役割と実践 その2
7	SSWの実践モデル その1
8	SSWの実践モデル その2
9	SSWの支援方法 その1
10	SSWの支援方法 その2
11	SSWの支援方法 その3
12	スーパービジョンの必要性
13	アセスメントとケース検討会 その1
14	アセスメントとケース検討会 その2
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSW限らず、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

日本スクールソーシャルワーク協会編(2008)：『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

【参考文献】

門田光司(2010)：『学校SW実践』、ミネルヴァ書房。学校SW学会編(2008)：『SSWr養成テキスト』、中央法規。
山下英三郎(2006)：『相談援助—子どもたちとの関わりを中心に—』、学苑社。

精神医学

担当教員 知名 孝 他10名

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この講義では、精神医学の基礎（生物・神経学的、心理学的基礎、疾患・症状という基礎概念、その他精神医学理解のための基礎概念）に関する学習を行う。それをふまえ、各論の展開の中で代表的な精神疾患についてのより具体的な学習を行っていく。治療論・リハビリテーション論のなかでは、医療だけでなく、福祉、行政、教育などのやくわり、さらには文化に根ざした治療など、精神科サービスに付随する様々な取組も含め紹介・学習していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入・オリエンテーション（知名孝）	17	心理発達の障害（仲俣明夫）
2	精神医学の基礎（仲俣明夫）	18	心理発達の障害（仲俣明夫）
3	精神医学の基礎（仲俣明夫）	19	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
4	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	20	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
5	同 上（大鶴卓）	21	職場環境と精神疾患（山本和儀）
6	統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害	22	職場環境と精神疾患（山本和儀）
7	同 上（横田泉）	23	精神障害者支援（安村勤）
8	気分障害（躁うつ病・うつ病）（仲本晴男）	24	精神障害者支援（安村勤）
9	気分障害（躁うつ病・うつ病）（仲本晴男）	25	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
10	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	26	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
11	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	27	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
12	地域精神医療（知念襄二）	28	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
13	地域精神医療（知念襄二）	29	まとめ（知名孝）
14	神経症性障害（浦秀樹）	30	後期テスト（知名孝）
15	人格障害（浦秀樹）	31	
16	心理発達の障害（仲俣明夫）		

【履修上の注意事項】

この講義は複数講師によるオムニバスにより行われます。

【評価方法】

毎回講義の後に提出される講義のまとめと感想、出席、そして学期末テストにより総合評価される。

【テキスト】

『精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学』（精神保健福祉士養成セミナー編、へるす出版）

【参考文献】

精神科リハビリテーション学

担当教員 知名 孝

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

障害の種類にかかわらず、ノーマライゼーションの実践は地域におけるリハビリテーションを前提とする。精神障害者を対象としたリハビリテーションは、精神障害という性質からくる独自性が存在する。当事者として、家族として、市民として、そして人間として、障害とそして精神障害とともに生きることを考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	精神科リハビリにかかわる機関－保健所等
2	精神障害と精神疾患Ⅰ	18	その他関係機関
3	精神障害と精神疾患Ⅱ	19	リハビリテーション実践（計画・アセス）
4	障害者リハビリテーションという考え方	20	疾病の経過・ライフサイクル
5	精神科リハビリテーションの歴史・考え方	21	作業療法、レクリエーション療法
6	精神障害者をとりまく環境・制度（日本）	22	集団精神療法
7	精神障害者をとりまく環境・制度（国外）	23	行動療法（理論と実践）
8	精神科リハビリテーションの対象	24	認知行動療法（理論と実践）
9	リハビリテーションにおける精神保健福祉士	25	心理教育実践
10	チームをつくる	26	SSTの実際
11	脱施設化について	27	デイナーケア
12	病院精神医療の現状	28	社会的状況でのリハビリテーション
13	社会復帰施設と社会資源	29	軽症うつ病、不安障害のリハビリ
14	社会復帰施設と社会資源Ⅱ	30	児童・思春期への実践／まとめ
15	前期まとめ	31	
16	精神科リハビリにかかわる機関－医療		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物（宿題・講義中の課題）、授業への参加態度、学期末試験を総合的に評価をだす。

【テキスト】

『精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学』（精神保健福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規）

【参考文献】

『リカバリーへの道』（マーク・レーガン著、前田ケイ監訳 金剛出版）
『精神科リハビリテーション学』（蜂矢英彦、岡上和雄監修 金剛出版）

精神保健学

担当教員 渡邊 浩樹

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この20年足らずの間に社会福祉士、精神保健福祉士や臨床心理士などメンタルヘルスを取りまく資格制度が充実されてきた。それと同じくして、昨今の児童青年期が被害・加害として巻き込まれた凶悪事件、中高年の自殺、職場における精神疾患特にうつ病の問題、性犯罪の問題、軽度（高機能）発達障害の問題など、以前には比較にならないほどの多様なニーズと問題を精神保健福祉はつきつけられている。本講義では精神医療、保健、福祉など様々な現場に対応すべく、精神保健福祉の多様なニーズを紹介しながら問題提起と議論を深めていきたい

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・講義への導入	17	ひきこもり（学校・家庭の精神保健）
2	「精神」保健と社会	18	軽度（高機能）発達障害と精神保健
3	精神保健の概要	19	児童青年期のうつ病
4	精神疾患について（レビュー）	20	その他児童青年期の精神保健について
5	精神疾患について（レビュー）	21	DVと精神保健
6	ライフサイクルと精神保健福祉（乳幼児期）	22	児童虐待と精神保健
7	ライフサイクルと精神保健福祉（就学前期）	23	中高年の自殺、うつ病、EAP
8	ライフサイクルと精神保健福祉（学童期）	24	アルコール依存症
9	ライフサイクルと精神保健福祉（青年前期）	25	薬物依存症
10	ライフサイクルと精神保健福祉（青年後期）	26	慢性精神疾患と保健・福祉
11	ライフサイクルと精神保健福祉（成人期）	27	慢性精神疾患と保健・福祉
12	ライフサイクルと精神保健福祉（中高年期）	28	諸外国の精神保健福祉
13	精神障害者に対する精神保健福祉	29	
14	老人性痴呆疾患対策	30	全体まとめおよびテスト
15	前期まとめおよびテスト	31	
16	いじめと登校拒否（学校精神保健）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

前期・後期それぞれの学期末にテストを行う。

【テキスト】

レジュメプリント

『精神保健福祉士養成講座2 精神保健学』精神保健福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）

【参考文献】

精神保健福祉援助演習

担当教員 知名 孝

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉援助技術の体験的学習の場として1年を通じて学習していく。精神疾患をかかえながら生きるということはどういうことか、精神保健福祉にかかる資源、ケースの見方・聞き方、当事者や家族への対し方、技術としての面接、グループの運営の仕方、NPO法人や地域福祉の展開の意義などミクロからマクロへの展開を体験的に伝える場とすることを目的とする。

【授業の展開計画】

1年間を、①利用者理解のための基本的態度、②援助技術の習得、③精神保健福祉をとりまく社会資源の学習、④精神保健福祉-現在と未来に分ける。それぞれの中で具体的な講義・活動内容について説明する。

【履修上の注意事項】

精神保健福祉援助技術演習は、講義で習得した内容を体験的・具体的に学習するためのゼミである。従ってその履修に際しては、少なくとも精神医学、精神保健福祉論、精神保健福祉援助技術総論および各論の履修を終了しておくことを条件とする。

【評価方法】

評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。

【テキスト】

講義開始時にテキストについては説明する。

【参考文献】

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 山城 涼子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉論

担当教員 真栄平 勉・山城 涼子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 6.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生命哲学

担当教員 一新垣 誠正

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 生理心理学とは | |
| 2 | 脳の構造 | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | ニューロンとシナプス | |
| 5 | 〃 | |
| 6 | 神経伝達物質及び薬物と脳 | |
| 7 | 〃 | |
| 8 | 〃 | |
| 9 | 感覚・知覚と脳 | |
| 10 | 〃 | |
| 11 | 運動と脳 | |
| 12 | 〃 | |
| 13 | 本能と脳 | |
| 14 | 情動と脳 | |
| 15 | 自律神経系及び内分泌系と脳 | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験の結果により評価する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|----------------------------|--------------|
| 1 | オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習 | |
| 2 | 言語と大脳半球機能差（言語野と失語症） | |
| 3 | 〃（言語機能と性差） | |
| 4 | 大脳半球機能差に関する理論 | |
| 5 | 記憶について（記憶障害の事例から） | |
| 6 | 〃 | |
| 7 | 〃（記憶の生理学的基盤） | |
| 8 | 脳波の基礎（測定法・分析法） | |
| 9 | 〃（基本の脳波と異常脳波） | |
| 10 | 〃（睡眠と脳波及び脳波の利用） | |
| 11 | 誘発電位と事象関連電位 | |
| 12 | 事象関連電位、特にP3の特徴と利用 | |
| 13 | ストレスとリラクゼーション（ストレス時の反応） | |
| 14 | 〃（測定法） | |
| 15 | 〃（ストレス反応のコントロール） | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験の結果により評価する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

当基礎演習では国際社会における福祉問題を幅広く学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

授業は議論形式で、国際社会における福祉問題の論点を学んでいく。各回の授業ごとにグループ発表をもとに授業をすすめる。夏休みにはハワイでの国際フィールドワークに参加しハワイのソーシャルワークについて現地で体験学習を実施する。社会調査士の取得を希望する学生のうち、ハワイセミナーに参加する者は現地で「社会調査」実習を行う。後期には国外、国内および沖縄にある国際社会福祉組織について学ぶ。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。この授業で議論する論点は以下のとおり。

< 論点 >

- ・ 地球的規模の相互依存の現状
- ・ ソーシャルワークと国際的社会発展、
- ・ ソーシャルワークと環境、継続可能な発展、世界経済
- ・ 世界規模の高齢化 ・ 民族紛争と近代における武力衝突
- ・ ソーシャルワークと難民 ・ 国際的エイズ危機
- ・ 世界の国際社会福祉機関と国際問題
- ・ 日本の国際社会福祉機関と国際問題
- ・ 沖縄県内の国際機関と国際問題

【履修上の注意事項】

・ 講義は主に英語で行い、英語の文献を併用するため、外国語演習 I、II を履修することや、各自で英語の予備学習をすることが望ましい。・ 「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドのp149を参照するとともに、2～3年のうちに「社会調査の基礎」（「社会調査法 I」）、「社会調査の企画と設計」（「社会調査法 II」）、「統計学 I」、「社会統計学 I・II」 「専門演習 I・II」（Donald Craig Willcox か 桃原一彦）、「国際福祉基礎演習」・「国際福祉演習」、または「福祉教育基礎演習」・「福祉教育演習」を受講すること。

【評価方法】

- ・ 出席状況
- ・ レポート発表の内容
- ・ 講義中の議論など授業への参加意欲

【テキスト】

ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規
M.C. Hokenstad, James Midgley (1997) Issues in International Social Work, NASW Press.

【参考文献】

- ・ その他、適宜資料を配布または紹介する

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

当演習ゼミは「地域福祉」「福祉コミュニティの構築」に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関するリーダーやコーディネーター、さらに地域問題やマイノリティ問題などの運動ネットワーク構築の人材を育成していくためのゼミである。よって、地域の実態把握のためにも「社会調査」の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見、社会調査の実施、報告書の執筆までをとおしてコミュニティ構築の洞察力を深めていく。とくに社会調査に関しては、都市の地域問題に関するフィールドを展開する予定である。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「都市の多面的世界と空間の政治に関する社会学的探求」と題する。すなわち、都市における空間の権力構造と多様な生活世界とのせめぎあいや交渉過程から描かれる、新たな都市コミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。とくに、生活世界の諸相を捉える場合、都市マイノリティに対するまなざしということを前提として考えたい。

まず、2年（専門演習 I）ゼミでは、前期に都市空間の権力構造の諸問題に関する理論的学習を行い、次に都市マイノリティとその個別具体的な生活世界を理解するための学習を行なう。夏期休暇期間中は、文献・資料と併せて都市地域（調査予定地）の事前視察と関係各機関・団体を事前訪問し予備的調査を行う。後期は今年度のゼミの共通テーマを確定・具体化し、さらに下位テーマを抽出する。下位テーマに即して調査グループを編制し、春季休暇期間中に資料等の収集を行なう。

なお、3年次での調査予定地は、沖縄県内最大の市街地を抱えつつ、観光イメージの代理表象化に基づく空間造形が著しい那覇市の国際通り界隈および周辺地域を取り上げ、その空間の政治とせめぎあう様々な生活世界の層を取り上げていく。

【履修上の注意事項】

「都市社会学 I・II」ならびに「社会調査法 I・II」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

専門演習 I は、3年次「専門演習 II」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材（MSW：医療ソーシャルワーカー）が強く求められており、その即実践可能な人材の育成は不可欠であると考えられる。なお、本ゼミは主に医療ソーシャルワーカーを目標とする学生が履修を希望し、登録するため、4年まで一貫した演習を実施していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療ソーシャルワーカーって？
4	グループ編成 グループ課題決定	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	グループ課題達成のための計画①	21	患者様・・・・・・・・
6	グループ課題達成のための計画②	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘	23	病院で起こった困った問題①
8	話題提供 認知症	24	病院で起こった困った問題②
9	話題提供 医療保険	25	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）①
10	話題提供 介護保険	26	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）②
11	話題提供 医療施設の種類	27	グループ課題報告書作成①
12	話題提供 介護保険施設の種類の種類	28	グループ課題報告書作成②
13	身近な医療問題①あなた&あなたの家族	29	グループ課題報告書作成③
14	身近な医療問題②あなた&あなたの家族	30	1年間を振り返って
15	前期振り返り	31	
16	後期開始 グループエンカウンター		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障論、保健医療サービス、老人福祉論の科目を履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席、受講態度、意見発表の積極性、課題提出状況など総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

- ①社会をつくるセクターとして期待されているNPO活動について、福祉国家、福祉社会、社会的企業の視点から研究する。
- ②沖縄県内のNPO活動と長期にわたって関わりを持ち、地域社会の問題解決およびまちづくりの手法について学ぶ。
- ③広く国内外のNPOの実践例について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション①演習の目的について	17	夏休みの活度報告会②
2	オリエンテーション②年間計画	18	NPOに関する文献購読①
3	NPOに関する文献購読①	19	NPOに関する文献購読②
4	NPOに関する文献購読②	20	NPOに関する文献購読③
5	NPOに関する文献購読③	21	NPO活動参加への準備①
6	NPOに関する文献購読④	22	NPO活動参加への準備②
7	NPO活動支援センター訪問	23	NPO活動参加への準備③
8	県社会福祉協議会訪問	24	NPO団体訪問
9	ゲストスピーカーによる実践報告	25	ゲストスピーカーによる実践報告
10	グループ研究～理論を中心に～①	26	中間報告会①
11	グループ研究～理論を中心に～②	27	中間報告会②
12	グループ研究～理論を中心に～③	28	中間報告会③
13	グループ研究発表会①	29	報告集作成①
14	グループ研究発表会②	30	報告集作成②
15	夏休みの活動について	31	
16	夏休みの活動報告会①		

【履修上の注意事項】

- ①演習はゼミ生どおしが活発に関わりあい、知識や経験を共有し、互いに高めあう場である。個々の学生がゼミの仲間と積極的に学びあうことが期待される。
- ②学外の活動やイベント（NPOに関する講演会や研究会、NPO団体の活動など）に積極的に参加することが期待される。
- ③演習時には研究論文を多数読む。日頃から図書館を活用して知識を広げることが期待される。

【評価方法】

- ①演習で取り組む課題の内容
- ②演習および学生による自主的な活動への積極的な参加状況
- ③出席状況
- その他

【テキスト】

第1回演習時に提示する

【参考文献】

第1回演習時に提示する

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力や論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。
また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には保護者を含む家庭の問題が関わってくる。つまり、子どもと関わる際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、第一に子どもを取りまく環境を理解する。

特に「スクールソーシャルワーク」「社会的養護（集団・個別）」及び「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。その柱は下記に示す。

①「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状（英書購読含む）
- ・学校等関係機関訪問 等

②「社会的養護」

- ・集団養護（施設）及び個別養護（里親）それぞれの現状及び課題
- ・諸外国の現状
- ・児童福祉施設・機関等訪問 等

③「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 知名 孝

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

1. 発達理論：エリクソン、フロイト、M. マーラー、ボウルヴィーなどの発達理論から、人の成長・発達について考えていく。
2. 診断学：発達障害、子ども特有の精神疾患について掘り下げて学習する。DSMやICDなどの疾患分類をきちんと把握する。行動アセスメント・心理アセスメントが理解できるようにする。
3. 地域支援：自立支援法におけるサービスについて制度上の学習、自立支援協議会とそれに付随した分科会の果たす役割。様々な公的機関、各種事業所の役割。
4. 支援理論：支援理論については以下のようにまとめられる。
 - i) ソーシャルワーク理論：機能主義的理論からシステムズ理論に影響されたソーシャルワーク理論、そして昨今のナラティブアプローチなどのソーシャルワーク理論。特に「調整」に関する支援理論を中心に。
 - ii) グループ実践：SST（ソーシャルスキル・トレーニング）、心理教育プログラムなど。
 - iii) ミリユール（生活場面介入）：TEACCHやABAなど、施設生活・児童デイ生活のなかで具体的な介入のための支援理論を中心に。
 - iv) 面接法：地域支援は人とのやりとり。やりとり法（＝面接法）はSWにとって重要な技術。
5. 実習・実践：児童デイサービスや日中一時支援、児童思春期心療内科クリニックなどでボランティア実習、自立支援協議会の見学、自立支援協議会圏域部会の見学、（ある市町村の）性行動問題部会の見学など。
6. 社会的に考える視点：「子ども達の行動の問題」が投げかける意味（唯物論的意味の検証）、「診断」、「障害」という現象の社会構成主義的認識。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

相談援助演習

担当教員 岩田 直子 ・ 比嘉 昌哉 ・ 宮城美智子 ・ 古波蔵香咲花

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 10.0

関連資格

備考 社会福祉士受験資格取得科目

【授業のねらい】

本科目は、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門援助技術として概念・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の具体的な相談援助事例を取り上げる。②個別・集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技を演習形態で行う。

【授業の展開計画】

- 1.～2. : 自己覚知
①～②
- 3.～5. : 基本的なコミュニケーション技術
①受容、②傾聴、③共感
- 6.～7. : 基本的な面接技術の習得
①バイステックの7原則、②その他
- 8.～12. : 事例検討
①社会的排、②虐待（児童・高齢者）、③家庭内暴力（DV）、④低所得者、⑤ホームレス
- 13.～17. : 相談援助技術
①インテーク、②アセスメント、③プランニング、④支援の実施、⑤モニタリング・終結とアフターケア
- 18.～21. : その他の援助技術
①アウトリーチ、②チームアプローチ、③ネットワーキング、④社会資源の活用・調整・開発
- 22.～26. : 地域福祉に係る援助技術
①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、②地域福祉計画、③ネットワーキング、④社会資源の活用・調整・開発、⑤サービス評価
- 27.～29. : 実習後の個別・集団指導
①～③
30. : まとめ

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、社会福祉専門職（社会福祉士）を取り巻く環境に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編（2009）：『相談援助演習』、中央法規。

【参考文献】

対人援助実践研究会（2003）：『対人援助ワークブック』KUMI。

相談援助の基盤と専門職

担当教員 比嘉 昌哉・大城 安隆

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

「相談援助の基盤と専門職」では、まず社会福祉専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解する。相談援助の概念と範囲、理念についても理解する。さらには、相談援助に係る専門職の概念、範囲及び専門倫理についても理解する。

それらを踏まえた上で、総合的かつ包括的な援助と他職種間の連携の意義と内容について学びを深める。

【授業の展開計画】

前期	後期
① オリエンテーション・授業の説明	① 後期オリエンテーション・授業説明
② 社会福祉士の役割と意義 その1	② 専門職倫理と倫理的ジレンマ その1
③ 社会福祉士の役割と意義 その2	③ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その2
④ 相談援助の定義と構成要素 その1	④ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その3
⑤ 相談援助の定義と構成要素 その2	⑤ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その1
⑥ 相談援助の形成過程Ⅰ その1	⑥ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その2
⑦ 相談援助の形成過程Ⅰ その2	⑦ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その3
⑧ 相談援助の形成過程Ⅱ その1	⑧ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その1
⑨ 相談援助の形成過程Ⅱ その2	⑨ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その2
⑩ 相談援助の形成過程Ⅱ その3	⑩ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その1
⑪ 相談援助の理念Ⅰ その1	⑪ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その2
⑫ 相談援助の理念Ⅰ その2	⑫ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その1
⑬ 相談援助の理念Ⅰ その3	⑬ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その2
⑭ 相談援助の理念Ⅱ その1	⑭ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その3
⑮ 相談援助の理念Ⅱ その2	⑮ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その4
⑯ 前期末テスト	⑯ 後期末テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、社会福祉専門職（社会福祉士等）を取り巻く環境に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

特に、関連する法改正等には注目・関心をもつこと。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び前・後期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、中央法規。

【参考文献】

柳澤孝主・坂野憲司編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、弘文堂。

相談援助の理論と方法

担当教員 岩田 直子・安次富 郁哉・知名 孝・島村 枝美

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

相談援助を行う上で必要な知識や技術を理解する。また、ソーシャルワーカーが行う援助課程について理論的に理解する。さらに、個人に対する支援だけでなく、組織や地域社会にまで対象範囲を広げて実践をする方法について学ぶ

【授業の展開計画】

(前期)

- 第1回 4月7日 オリエンテーション、ソーシャルワークの定義と構成要素 岩田
- 第2回 4月14日 相談援助の構造と機能 岩田
- 第3回 4月21日 人と環境の交互作用 岩田
- 第4回 4月28日 相談援助における援助関係 岩田
- 第5回 5月12日 相談援助における対象の理解 岩田
- 第6・7回 5月19・26日 さまざまな実践モデルとアプローチ(理論)①② 岩田
- 第8回 6月2日 前期中間試験 岩田
- 第9・10回 6月9・16日 さまざまな実践モデルとアプローチ③④ 知名
- 第11・12回 6月30日・7月7日 相談援助の展開過程 知名
- 第13・14・15回 7月14・21・28日 相談援助のための技術①②③ 知名
- 第16回 8月4日 期末試験

(後期)

- 第1回 9月29日 ケアマネジメントについて 島村
- 第2回 10月6日 コーディネーションとネットワーキング① 島村
- 第3回 10月13日 コーディネーションとネットワーキング② 島村
- 第4・5回 10月20・27日 相談援助における社会資源の活用・調整・開発①② 島村
- 第6・7回 11月10・17日 相談援助の実際①② 島村
- 第8回 11月24日 後期中間試験 島村
- 第9回 12月1日 相談援助における個人情報の保護 安次富
- 第10回 12月8日 相談援助における情報通信技術の活用 安次富
- 第11・12回 12月15・22日 事例検討・事例分析①② 安次富
- 第13・14・15回 1月12・19・26日 社会福祉調査について①②③ 安次富
- 第16回 2月9日 期末試験

【履修上の注意事項】

本科目はオムニバス方式の通年講義科目であり、4名の教員が担当する。

【評価方法】

各担当教員が試験もしくはレポートを課す。
授業態度および出席状況

【テキスト】

社会福祉士養成講座 『相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ』（最新版）、中央法規

【参考文献】

各担当教員が随時紹介する。

地域福祉の理論と方法

担当教員 -上地 武昭

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解することで「自分の知覚の仕組み」について理解することが大切である。さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら授業を進めていく予定である。授業での体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚:Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない知覚というこころの働きについて目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果についてクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②ブラインドワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- 心理学概論、もしくは共通科目の心理学Ⅰを履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- 知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

初回の講義時に紹介する予定

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

哲学的人間論

担当教員 小柳 正弘

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「人間」とは何かという問題を哲学の見地からさまざまに検討する。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義でも、講義担当者が諸説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで、この問題がどのように問題となりうるのかを「ともに考える」ことをめざす。

【授業の展開計画】

「人間」とはなにかを「ともに考える」という事を授業の中核にすえる。具体的には①毎回その回の授業に関わる小レポートを授業中に書いてもらい②何人かの学生にはそれに基づく発言を求め③講義担当者も交えて質疑応答を行う。小レポートは各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる。発言や質疑応答も発言記録票にその内容を発言者が記載の上このファイルにとじる（講義担当者が押印）。フラットファイルは毎時間回収・配布（これで出欠を確認）。小レポートは授業の素材として用いる。

- 1 オリエンテーション
- 2 哲学とはなにか―土屋賢二の場合
- 3 哲学とはなにか―鷲田清一の場合
- 4 人間とはなにか・・・和辻倫理学
- 5 社会的存在としての人間（1）・・・谷川俊太郎「わたし」
- 6 社会的存在としての人間（2）・・・G.H.ミードの自我論
- 7 人間はなにでないか・・・ボノボは人間か（1）
- 8 人間と神・・・パスカル「人間は考える葦である」をめぐって
- 9 人間はなにでないか・・・ボノボは人間か（2）
- 10 人間と死（1）・・・ストア派とエピクロス
- 11 人間と死（2）・・・ソクラテス
- 12 禅の人間観
- 13 他者とはだれか・・・よきサマリ人の隣人愛をめぐって（1）
- 14 他者とはだれか・・・よきサマリ人の隣人愛をめぐって（2）
- 15 まとめ。必要があれば16回目にテストを行います。

【履修上の注意事項】

「授業のねらい」や「授業の展開計画」に記したように、授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室は「ともに考える」場なので、私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）、質問は原則授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。

【評価方法】

あらかじめテーマを指定したまとめのレポート（持ち込み不可）＝30点
小レポート・発言記録票の評価＝70点

【テキスト】

なし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

都市社会学 I では「都市（化）という現象を社会的に解釈する」こと、つまり都市社会学の理論的視座を学び、近・現代都市の諸側面を実践的に理解していくための内容とする。理論の基本的視座に関してはアメリカ・シカゴ学派、およびフランス・マルクス主義「新都市社会学」、そして日本の都市社会学理論までを学史的に取り上げていく。また実践的な学習としては、インナーエリア空間の特質、都市エスニシティと貧困・差別問題、抵抗としてのマイノリティ文化の創造など、都市社会の諸側面を考えていく内容とする。

【授業の展開計画】

授業の展開計画 毎回の講義に際しては、前回講義の「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学的研究の意義
2	「都市」「都市化」とは何か？—都市社会学の基本的視座—
3	都市社会への理論的まなざし①—近代ヨーロッパ都市と分節化の政治—
4	—合理性、知性、市場経済
5	—野蛮性、収奪、奴隷
6	都市社会への理論的まなざし②—移民国家アメリカの都市社会とシカゴ学派
7	—アメリカ合衆国の都市化とその歴史的背景
8	—シカゴ学派の理論的枠組み（形式社会学／進化論／生態学）
9	—同心円地帯モデルと進化の空間図式
10	—映像でみるアメリカ都市の空間構造
11	都市社会への理論的まなざし③—デュボイスの都市研究とブラックソシオロジー
12	—デュボイスの都市研究とその功績
13	—ブラックソシオロジーの再検討
14	—マイノリティへのまなざしと身体・空間の政治
15	都市社会学 I の総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は個人による課題提出、またはワークショップ形式のグループ学習を取り入れるので、受講生自ら積極的に関わるように。また出席確認をとる。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないが、適宜紹介する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣・見田宗介、他編『現代社会の社会学』岩波書店
その他、講義の中で適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

都市社会学Ⅱでは、今日の都市社会学研究において注目を集める「空間論」「権力論」をベースに、郊外空間（サバービア）や大衆消費社会的都市空間について考える講義内容とする。とくに、郊外空間を社会的に読み解くうえで戦後日本の「アメリカニズム」の文脈をとらえるカルチュラルスタディーズの視座や、集会的消費空間（ショッピングモールなど）を読み解くうえで重要な「テーマパーク論」を紹介し、受講生の実践的な学習のなかで応用してもらおう。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらおう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化①—1920年代を中心に
3	日本における近代的都市化②—1950年代後半～1960年代を中心に
4	日本における近代的都市化③—1980年代後半～90年代初頭を中心に
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関論と「正常人口の正常生活」概念
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間論とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論の台頭
8	日本における都市社会学の展開④—マルクス主義の波及と資本・国家・空間の文脈
9	日本における都市社会学の展開⑤—空間の生産主体論と都市エスノグラフィ
10	空間の権力性に関する理論的視座①—空間の権力性に関する理論的視座
11	空間の権力性に関する理論的視座②—「郊外」というせめぎあう舞台
12	空間の権力性に関する理論的視座③—アメリカ化／マクドナルド化と集会的消費
13	空間の権力性に関する理論的視座④—テーマパーク論のテキスト
14	空間の権力性に関する理論的視座⑤—郊外化する沖縄の都市空間とショッピングモール
15	都市社会学Ⅱの総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は個人による課題提出、またはワークショップ形式のグループ学習を取り入れるので、受講生自ら積極的に関わるように。また出席確認をとる。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

グループ学習への参加度。レスポンスの提出状況。レポート等の課題提出などにおいて評価する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣・見田宗介、他編『現代社会の社会学』岩波書店
その他、講義の中で適宜紹介していく。

動作法

担当教員 平山 篤史

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

動作法は心理療法の一つである。きちんとした姿勢をとることや、正しく身体を動かす過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させるものである。姿勢や動作の改善や、ストレスマネジメントなど様々な対象者への心身の援助に効果を発揮している。この授業では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法として活用することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション ー相手の身体に触れることに関する諸注意ー
2	脳性まひ児への催眠適用結果に対する心理学的意味
3	催眠の歴史的経過
4	催眠理論と実技
5	動作法の援助の考え方と基本
6	リラクゼーションの見方、考え方
7	リラクゼーションの実技 軀幹
8	リラクゼーションの実技 肩を中心としたリラクゼーション
9	リラクゼーションの実技 股関節を中心としたリラクゼーション
10	リラクゼーションの実技 総合
11	動作法の臨床事例
12	タテ系動作課題について
13	座位姿勢の実技①
14	座位姿勢の実技②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

本授業では催眠や動作法等、相手の人格に深く関わる技法の練習を行う。したがって、実技では相手を思いやり、相手の心を踏みにじらないことが絶対の条件である。そのため、実技の際にこれらを犯す者は動作法を行う資格に欠けると判断し、受講を取り消すことがある。

【評価方法】

出席、受講中の態度や実技実習への取り組み、毎回のミニレポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版

日本の国際協力

担当教員 徳元 貴子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見を具体的な実験を紹介しながら概説する。さらに、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしてみるというワークを通して、認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きについて、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：認知心理学に関連する課題をいくつか課す
 期末課題：学期末にレポート課題を課す
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

特に指定しない。必要な資料を授業時に配布する予定である。

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

- 1週 オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
- 2週 発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
- 3週 発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
- 4週 発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
- 5週 発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
- 6週 発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
- 7週 発達理論④：主要な理論について紹介する
- 8週 胎児期：胎児期の発達の様子
- 9週 乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
- 10週 幼児前期：幼児期の発達の様子①
- 11週 幼児後期：幼児期の発達の様子②
- 12週 児童期：児童期の発達の様子
- 13週 青年期①：青年期の課題①
- 14週 青年期②： " ②
- 15週 期末試験
- 16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- ・ 自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・ 過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

- 1週 オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
- 2週 発達理論①：主要な理論について紹介する
- 3週 発達理論②：主要な理論について紹介する
- 4週 発達理論③：主要な理論について紹介する
- 5週 胎児期から青年期①：概観①
- 6週 胎児期から青年期②：概観②
- 7週 青年期：青年期の課題
- 8週 成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
- 9週 成人前期：成人前期の発達の様子②適応
- 10週 成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
- 11週 成人中期：成人中期の発達の様子②適応
- 12週 成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
- 13週 発達課題について：まとめ
- 14週 発達研究：展望と課題
- 15週 期末試験
- 16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- ・ 自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・ 過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 財部 盛久

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業は前期開講の障害児・者心理学を基礎として、学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象とした発達障害の心理臨床について概説をする。おもな授業内容は発達障害のアセスメントおよび発達障害の理解と支援に際しての基礎理論、そして心理臨床としてコミュニケーション支援、日常生活支援の実践そして親支援に関するテーマを取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第 1回：オリエンテーション
- 第 2回：発達障害概論
- 第 3回：発達障害とアセスメント（1）
- 第 4回：発達障害とアセスメント（2）
- 第 5回：発達障害支援の基礎理論（1）
- 第 6回：発達障害支援の基礎理論（2）
- 第 7回：発達障害支援の基礎理論（3）
- 第 8回：発達障害と心理臨床（1）
- 第 9回：発達障害と心理臨床（2）
- 第10回：発達障害と心理臨床（3）
- 第11回：発達障害と心理臨床（4）
- 第12回：発達障害と心理臨床（5）
- 第13回：発達障害と心理臨床（6）
- 第14回：発達障害と心理臨床（7）
- 第15回：発達障害と心理臨床（8）
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび試験により総合的に評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは評価の対象にはならないので、そのことは了解しておいて欲しい。特に授業に出席する際は、予習課題を十分に理解し、毎回の授業で実施する小テストは評価の際に考慮する。

【テキスト】

資料を適宜配布するので特にテキストの指定はしない。授業の内容を深く理解するためには以下の図書は参考になる。

【参考文献】

『行動障害の理解と援助』長畑正道他編著 『自閉症とこころの臨床』小林隆児・原田理歩著 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎著 『LD（学習障害）とADHD（注意欠陥多動性障害）』上野一彦著

福祉英語 I

担当教員 M. N. M a d s e n

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

By exposing students to alien cultures, thinking, and customs through literature written in English, the students not only learn how non-Japanese live and think at various points in history, they also learn important idiomatic expressions and useful vocabulary. To accomplish this, weekly dictations of short paragraphs are used to provide easily obtained vocabulary in a solid adult English framework while avoiding the problems of grammatical complexities that mystify many students. In addition, worksheets exposing the students to some English patterns are used weekly.

【履修上の注意事項】

Worksheets and dictation provide the basis for attendance records and grades. It is therefore important to attend classes as much as possible. These take the place of the midterm and the final exams. It is obvious then that preparation for each class will greatly enhance each student's grades.

【評価方法】

【テキスト】

No specific textbook.

【参考文献】

Presentation of assorted stories of Hans Christian Andersen.

福祉英語Ⅱ

担当教員 M. N. M a d s e n

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

By exposing students to alien cultures, thinking, and customs through literature written in English, the students not only learn how non-Japanese live and think at various points in history, they also learn important idiomatic expressions and useful vocabulary. To accomplish this, weekly dictations of short paragraphs are used to provide easily obtained vocabulary in a solid adult English framework while avoiding the problems of grammatical complexities that mystify many students. In addition, worksheets exposing the students to some English patterns are used weekly.

【履修上の注意事項】

Worksheets and dictation provide the basis for attendance records and grades. It is therefore important to attend classes as much as possible. These take the place of the midterm and the final exams. It is obvious then that preparation for each class will greatly enhance each student's grades.

【評価方法】

【テキスト】

No specific textbook.

【参考文献】

Presentation of assorted stories of Hans Christian Andersen.

福祉行財政と福祉計画

担当教員 一金城 鍛

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 一名 嘉 隆一

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会福祉施設・福祉サービス組織と経営の基本的知識

【授業の展開計画】

社会福祉は措置時代から利用者契約時代へと変化している。その根底には個の時代という認識がある。社会福祉構造改革や介護保険法・支援費制度の導入により社会福祉施設・福祉サービス組織を取り巻く経営環境は大きく変化している。少子超高齢化社会に向かい子どもおよび老人福祉の需要が一段と高まっているが、国家財政も地方自治体の財政も逼迫している。そうした財政環境のなかで、社会福祉施設・福祉サービス組織の経営環境は変化している。経営を確立し利用者へのサービスの管理の充実、在宅福祉サービスの提供、家族再生への支援など施設の社会化・施設・サービス組織の社会資源化が指摘されている。より高度な法人・施設の経営が求められている。本講座はその基本的知識を学ぶ。

- 社会福祉施設の体系と制度
- 生活困窮者・老人・身体障害（児）者・知的障害者（児）・児童・精神障害者・その他母子等・その他に対する施設の種類と生活
- 社会福祉施設経営と社会福祉法人の課題
- 社会福祉施設・福祉サービス組織と地域社会
- 社会福祉施設・福祉サービス組織における人材育成
- 経営環境の変化

【履修上の注意事項】

講義時に指示

【評価方法】

講義時に指示

【テキスト】

教師が講義資料作成

【参考文献】

講義時に指示

福祉と倫理

担当教員 小柳 正弘

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 0.0

【授業のねらい】

「福祉」と「倫理」の関わりについて社会哲学の見地からさまざまに検討する。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義でも、講義担当者が諸説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことをめざす。くわえて、授業の内外でのグループ・ワーク（調査・体験）も試みる。

【授業の展開計画】

①受講者全員に小レポートを授業中に書いてもらい、何人かの学生にはそれに基づく発言を求め、講義担当者も交えて質疑応答を行ったり、②グループに分かれて問題を検討し、一定の結論をまとめた上で、クラス全体で議論を行う、といったかたちで授業を展開する。小レポートやグループ・ディスカッションのまとめは各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる。発言や質疑応答も発言記録票にその内容を発言者が記載の上このファイルにとじる（これで出欠を確認）。授業の内外でグループ・ワーク（調査・体験）を実施する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会哲学の基本姿勢と倫理
3	「福祉」とはなにか
4	福祉の現状・・・鷲田小彌太の分析
5	福祉の問題・・・徳永哲也の整理
6	福祉はどうあるべきか
7	「障害」とはなにか（1）・・・個人モデルと社会モデル
8	「障害」とはなにか（2）・・・自立とパターナリズム／自己決定と人間の尊厳
9	ドラマ「車輪の一步」はなにを示唆しているのか（1）
10	ドラマ「車輪の一步」はなにを示唆しているのか（2）
11	障害を「理解」するとはどういうことか
12	福祉の「仕事」－専門職の葛藤と矛盾（横山貴美子）
13	「隣人愛」の可能性・・・「共鳴」の事実・原理・倫理（1）
14	「隣人愛」の可能性・・・「共鳴」の事実・原理・倫理（2）
15	まとめ。 16回目にテストを行います。
16	

【履修上の注意事項】

授業への実質的で積極的な参加を強く求める。自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室は「ともに考える」場なので私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）、質問は原則授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。小レポートは公開して授業の素材として用いる。授業の内外でのグループ・ワーク（調査・体験）への積極的な参加も求められる。

【評価方法】

期末テスト（持ち込み不可）＝30点

小レポート、グループ・ディスカッションやグループワークのまとめ、発言記録票等の評価＝70点

【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの基本的な構造と変遷を習得する。また、高齢社会を背景として、保健・医療・福祉の連携が重要となってきたが、その理論と実践について学ぶ。さらに、保健医療サービス提供に関わる専門職の役割と相互の連携のあり方、チームケアのあり方を理解する。

これからの社会福祉士に求められるのは、単に福祉の知識のみでなく、保健・医療の知識を含めた総合力であることを念頭において受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	保健医療サービスとその構成要素
3	保健医療サービス提供施設① 病院ってなに？診療所ってなに？
4	保健医療サービス提供施設② いろいろな種類の病院があるんだね。
5	保健医療サービス提供施設③ 介護保険施設についても知ろう！
6	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療従事者 社会福祉士
7	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカーって？
8	関連法規：医療法①
9	関連法規：医療法②
10	関連法規：介護保険制度と介護報酬
11	保健医療サービスの連携の理論と実践① 専門職との連携
12	保健医療サービスの連携の理論と実践② 専門職との連携
13	保健医療サービスの連携の理論と実践① 社会資源間連携
14	保健医療サービスの連携の理論と実践② 社会資源間連携
15	講義の振り返り
16	

【履修上の注意事項】

社会福祉士の資格取得を考えている皆さんには重要な科目であり、知識です。特に医療ソーシャルワーカーを目指す学生の皆さんは是非履修してください。

【評価方法】

学期末に実施する試験および複数回実施する復習試験（まめテスト）で客観的評価をします。なお、出席および課題提出も評価の判断材料とします。

【テキスト】

「保健医療サービス」 社会福祉士養成講座（中央法規）

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」「国民福祉の動向」「高齢社会白書」など。講義の中で随時アナウンスします。

養護原理

担当教員 玉城 孝

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：まとめ
15. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 大嶺 歩

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

臨床心理学の学問的な位置づけと諸理論、技法について幅広く学ぶ。さまざまな心の問題について考え、臨床心理学としてどうとらえ、関わっていくのかについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	臨床心理学とは
3	臨床心理学の実践
4	臨床心理学の理論と技法 (1) 精神分析療法、クライアント中心療法など
5	臨床心理学の理論と技法 (2) 認知行動療法ほか
6	臨床心理学の理論と技法 (3) 家族療法、コミュニティ心理学など
7	アセスメント (1) 検査法
8	アセスメント (2) 知能検査を中心に
9	発達障害 (1)
10	発達障害 (2)
11	臨床心理学の対象となる心の問題 (精神障害を中心に)
12	臨床心理学の対象となる心の問題 (家族関係、認知症など)
13	臨床心理学の研究活動 (実践に関する研究)
14	臨床心理学の社会的専門性 (諸領域にわたる心理援助、職業倫理)
15	これまでのまとめ 16回目に試験を実施します。
16	

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害を少し詳しく
3. 臨床心理学的諸問題：統合失調症その他の興味深い疾病を中心に
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法）
9. 臨床心理学的方法：短期療法1（MR Iアプローチ）
10. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
11. 臨床心理学的トピック：治療的コミュニケーションの語用論
12. 臨床心理学的トピック：短期療法と治療言語
13. 臨床心理学的トピック：心と現代の脳科学（ビデオを利用して）
14. 臨床心理学的トピック：まとめとその他興味深いトピックがあれば
15. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題についての理解をより深めるため、架空事例を取り上げて解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介する。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つということについて学んでほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	青年期の課題について
3	自我の発達論について
4	検査法 (1) 質問紙法
5	検査法 (2) 投影法
6	発達障害 (大人のアスペルガー症候群)
7	強迫性障害について
8	気分障害について
9	統合失調症について
10	人格障害について
11	自殺予防の取り組み
12	解決志向アプローチ
13	依存症について
14	関心の高かったトピックスなど
15	まとめ 16回目 試験を実施します。
16	

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

老年学概論 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を迫るには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

<前期>

- 1) Introduction (社会的な老年学分野の歴史と発達)
- 2) Historical and Cross-Cultural Issues in Gerontology (老年学の歴史的、異文化間的な問題)
- 3) Successful Aging in Social and Cultural Context (社会的、文化的関係において成功した加齢)
- 4) Social Consequences of Physical Aging (身体に加齢における社会的な影響)
- 5) Managing Chronic Diseases and Health Promotion (慢性病管理とヘルスプロモーション)
- 6) Cognitive Changes with Aging (加齢における認識的な変化)

<後期>

- 7) Personality and Mental Health in Old Age (老年期における自我とメンタル・ヘルス)
- 8) Social Theories of Aging (加齢の社会的な理論)
- 9) Social Support and Informal Care giving (社会的サポートと変則介護)
- 10) Social Policies and Long-term Care (社会政策と長期医療)
- 11) Overview of Geriatric Assessment (老年学アセスメントの概観)
- 12) Exceptional Longevity in Okinawa and Around the World (沖縄と世界中の例外的な長寿)

【履修上の注意事項】

上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生は文献等をクラスの前に読むこと。文献やクラス討論は、英語や日本語を併用する。

【評価方法】

- ・出席状況
- ・レポート発表の内容
- ・期末試験の内容
- ・講義中の議論など授業への参加意欲

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。
 沖縄タイムス『長寿』取材班 (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日』 岩波書店。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。

老年学概論Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

<前期>

- 1) Introduction (社会的な老年学分野の歴史と発達)
- 2) Historical and Cross-Cultural Issues in Gerontology (老年学の歴史的、異文化間的な問題)
- 3) Successful Aging in Social and Cultural Context (社会的、文化的関係において成功した加齢)
- 4) Social Consequences of Physical Aging (身体に加齢における社会的な影響)
- 5) Managing Chronic Diseases and Health Promotion (慢性病管理とヘルスプロモーション)
- 6) Cognitive Changes with Aging (加齢における認識的な変化)

<後期>

- 7) Personality and Mental Health in Old Age (老年期における自我とメンタル・ヘルス)
- 8) Social Theories of Aging (加齢の社会的な理論)
- 9) Social Support and Informal Care giving (社会的サポートと変則介護)
- 10) Social Policies and Long-term Care (社会政策と長期医療)
- 11) Overview of Geriatric Assessment (老年学アセスメントの概観)
- 12) Exceptional Longevity in Okinawa and Around the World (沖縄と世界中の例外的な長寿)

【履修上の注意事項】

上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生は文献等をクラスの前に読むこと。文献やクラス討論は、英語や日本語を併用する。

【評価方法】

- ・出席状況
- ・レポート発表の内容
- ・期末試験の内容
- ・講義中の議論など授業への参加意欲

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。
 沖縄タイムス (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日—“食”、“健康”、“生き方”を見つめなおす』 岩波書店。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。

医療福祉論Ⅰ

担当教員 樋口 美智子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 医療福祉の概念、医療における尊厳と権利
- 2 医療ソーシャルワークの歴史と動向
- 3 医療政策の動向、国民の健康と疾病、医療保険制度・診療報酬制度の概要
- 4 保健医療サービスの概要、医療施設の機能
- 5 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際
- 6 医療ソーシャルワーカーの業務と役割
- 7 医療ソーシャルワーカーの業務指針
- 8 医療ソーシャルワーク業務の実際、援助過程、コミュニケーション、記録
- 9 保健医療サービス関係者との連携と実際
- 10 チーム医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 11 緩和ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの役割
- 12 救急医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 13 小児医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 14 地域医療における連携、多職種と協働する地域活動
- 15 これからの保健・医療・福祉サービスの動向
- 16 (補講・試験・追試験)

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
医療保険制度、介護保険制度の復習をしておくこと。

【評価方法】

出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

「MINERVA社会福祉士養成テキストブックー第15巻保健医療サービス」/「改訂保健医療ソーシャルワーク実践全3巻」/「保健医療の専門ソーシャルワーク業務指針の基本的解説」/「日本の医療ソーシャルワーク史」

医療福祉論Ⅱ

担当教員 樋口 美智子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 障害の概念、生活障害とソーシャルワーク、家族の理解
- 2 危機状況に陥りやすい背景をもつ人々への援助
- 3 周産期における課題と援助
- 4 新生児期・乳幼児期・学童期における課題と援助
- 5 思春期・青年期における課題と援助
- 6 壮年期・老年期における課題と援助
- 7 ソーシャルワーク記録とは何か
- 8 ソーシャルワーク実践のための面接技法
- 9 ケース スタディ①（ロールプレイ）
- 10 信頼関係を結ぶ面接技術①②
- 11 ケース スタディ②（ロールプレイ）
- 12 核心をはずさない相談援助面接の技法①
- 13 核心をはずさない相談援助面接の技法②
- 14 ケース スタディ③（ロールプレイ）
- 15 ターミナルケアにおける面接
- 16 （補講・試験・追試験）

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
医療福祉論Ⅰを履修済であることが望ましい。

【評価方法】

出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

大本和子・田中千枝子・大谷昭・笹岡真弓著、『医療ソーシャルワーク実践50例－典型的実践事例によるわかり易い医療福祉－』/川村隆彦著、『支援者が成長するための50の原則－あなたの心と力を築く物語－』

学校臨床心理学

担当教員 與那嶺 敦

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

学校臨床心理学には2つの視点がある。まず、学校という場で臨床心理学を実践するという視点である。もうひとつは、学校教育と臨床心理学の違いを踏まえたうえで両者が相互補完的に児童生徒を支えるという視点である。本科目では、文部科学省の事業として主に公立中学校で展開されているスクールカウンセラーの仕事を概観する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	学校臨床心理学とは
3	学校組織とスクールカウンセラー
4	学校での面接の進めかた
5	児童生徒へのアプローチ①
6	児童生徒へのアプローチ②
7	保護者へのアプローチ
8	教師へのアプローチ
9	集団への予防的アプローチ
10	学校臨床におけるトピック①
11	学校臨床におけるトピック②
12	学校臨床におけるトピック③
13	学校臨床におけるトピック④
14	危機状況への支援
15	学外の専門機関との連携 第16回 テスト
16	

【履修上の注意事項】

授業への積極的な参加を求めます。
 なお、前項の展開計画は、適宜変更する可能性があります。

【評価方法】

課題、テスト、出席状況等を総合的に評価します。

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

『学校臨床心理学・入門』伊藤美奈子・平野直己[編] 有斐閣アルマ 2003 など

国際福祉演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

国際社会福祉の領域では、途上国をはじめとする世界全体の社会福祉問題へのとりくみとソーシャルワーカーによる役割が重要となっている。本演習では、国際社会福祉基礎演習（2年時）で学んだ国際社会福祉に関する問題や論点について、国際福祉の観点からグループ調査を通して体験的に学ぶことを目的とする。社会福祉領域で国際的にまたとくに沖縄において、今後ますます重要となる高齢化問題に焦点を当てる。グループ調査をとおして社会福祉的視点から問題背景や現状を学び、課題研究へつなぐ。

【授業の展開計画】

前期には、2年時までに学んだ国際社会福祉の問題や論点を発展させ、グループ調査を行う。前期は、沖縄の高齢者福祉問題に関するテーマに沿ってグループ調査計画と報告発表をおこなう。夏休みにグループ調査を実施し、後期には、適宜に一斉ゼミを開催し、課題研究の進め方とまとめ方について、個別指導により研究報告書作成を進め、ゼミ全体での調査報告書を完成させる。

【履修上の注意事項】

・講義は主に英語で行い、英語の文献を併用するため、外国語演習Ⅰ、Ⅱを履修することや、各自で英語の予備学習をすることが望ましい。・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドのp149を参照するとともに、2～3年のうちに「社会調査の基礎」（「社会調査法Ⅰ」）、「社会調査の企画と設計」（「社会調査法Ⅱ」）、「統計学Ⅰ」、「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」（Donald Craig Willcoxか桃原一彦）、「国際福祉基礎演習」・「国際福祉演習」、または「福祉教育基礎演習」・「福祉教育演習」を受講すること。

【評価方法】

（履修上の注意事項）続き

さらに前期で、調査方法や質問紙の作成などの準備を進め、夏休み中に「社会調査」実習を行うこととする。

（評価方法）

・出席状況・レポート発表の内容・講義中の議論など授業への参加意欲・課題研究の内容

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する。

社会福祉援助技術演習

担当教員 大城 安隆

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 8.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員 岩田 直子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 6.0

【授業のねらい】

- ①グループ研究や課題・事例研究を通して社会福祉の専門的な知識と技術を修得し、また、問題解決の能力や積極的な学習態度を育てることを目的とする。
- ②現場実習を通して社会福祉の基本的な見方や考え方を修得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	社会福祉実習事後学習②
2	社会福祉実習および課題研究について	18	社会福祉実習事後学習③
3	社会福祉の研究手法	19	社会福祉実習事後学習④
4	課題研究：面談①	20	課題研究：面談①
5	課題研究：面談②	21	課題研究：面談②
6	課題研究：面談③	22	課題研究：面談③
7	沖縄の社会福祉資源の実際	23	課題研究：面談④
8	社会福祉援助技術の復習①	24	課題研究中間報告会①
9	社会福祉援助技術の復習②	25	課題研究中間報告会②
10	社会福祉実習事前学習①	26	課題研究中間報告会③
11	社会福祉実習事前学習②	27	課題研究中間報告会④
12	実習前オリエンテーション	28	課題研究報告集作成①
13	社会福祉実習事前学習③	29	課題研究報告集作成②
14	社会福祉実習事前学習④	30	課題研究発表会
15	実習前オリエンテーション	31	
16	社会福祉実習事後学習①		

【履修上の注意事項】

課題は必ず提出すること。また、出席状況も重視する。

【評価方法】

実習評価、課題研究提出及び出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

特に指定しない

社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 6.0

【授業のねらい】

- ①グループ研究や課題・事例研究を通して社会福祉の専門的な知識と技術を修得し、また、問題解決の能力や積極的な学習態度、プレゼンテーション能力を育てることを目的とする。
- ②現場実習を通して社会福祉の基本的な見方や考え方を修得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	現場実習報告会 1
2	社会福祉援助技術実習の意義と目的	18	現場実習報告会 2
3	社会福祉士倫理綱領について	19	現場実習報告会 3
4	実習計画書・実習日誌作成について 1	20	現場実習報告会 4
5	実習計画書・実習日誌作成について 2	21	現場実習報告会 5
6	実習オリエンテーションⅡ	22	課題研究テーマ設定面談 1
7	現場実習配属先事前学習 1	23	課題研究テーマ設定面談 2
8	現場実習配属先事前学習 2	24	課題研究テーマ設定面談 3
9	現場実習配属先事前学習 3	25	課題研究テーマ設定面談 4
10	現場実習配属先事前学習 4	26	課題研究テーマ設定面談 5
11	オリエンテーションⅢ	27	課題研究報告書作成 1
12	事前訪問指導	28	課題研究報告書作成 2
13	実習前心得確認	29	課題研究報告書作成 3
14	日誌記述方法再確認	30	振り返り
15	前期振り返り	31	
16	実習事後指導 お礼状等		

【履修上の注意事項】

ゼミ課題については、提出日時を厳守のこと。ゼミの出席は評価の基本となるので必ず出席するよう心がける。また、ゼミの討論には積極的に参加する。

【評価方法】

実習評価、課題研究報告書の提出、出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

特に指定しない。

社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 6.0

【授業のねらい】

「社会福祉援助技術現場実習指導」では、社会福祉現場実習の意義について理解する。これまでに学んだ社会福祉関連科目を意識しながら、事前指導を受けてほしい。また、夏に行う現場実習で体験したことを事後指導で振り返り、「理論と実践の統合」の重要性を体得する。最終的には、個別の「課題研究」としてまとめる。

【授業の展開計画】

- ・実習オリエンテーション
- ・実習直前指導(実習の心得、実習日誌の書き方等)
- ・実習現場における体験学習や見学実習
- ・実習の振り返り(個別・グループ)
- ・実習報告会
- ・課題研究への取り組み
- ・その他

※必要に応じて他のゼミとの合同ゼミも計画している。

【履修上の注意事項】

実習に行くことを自覚し、受講すること。積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

課題研究、実習現場の評価、授業への参加、出欠状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特になし。必要があれば授業時に提示する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

心理学演習

担当教員 前堂 志乃

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

この演習では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の活動を行う。この活動を通して自分なりの卒論のテーマを発見し、絞り込んでいって欲しい。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

4年次の卒業論文演習のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、ゼミ論の作成と提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは、特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学演習

担当教員 平山 篤史

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒業論文作成の前段階として、各受講者が関心のもった心理学研究テーマを見つけることを目的とする。そのために、研究の「問題と目的」「方法」「結果」「考察」に至るまでの一連の流れを理解し、重要な点を読み取るための基礎的な力を身につける。さらに、関心領域の学術論文の精読を繰り返し、論文を理解し、批判的に考える力を身につけ、自分の研究につなげる。後期では、卒業論文に向けての研究デザインを作成し、発表する。

【授業の展開計画】

心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集、読み込み、研究テーマの絞込み、実験・調査の計画と実施及び、結果のまとめと考察といった一連の作業を論文精読・卒業論文デザインの作成を通して体験的に学ぶ。他の受講者の発表・論文指導においても全員が参加し、討論を行い、心理学研究の進め方について学ぶ。

詳細は初回の講義において説明する。

主に取り上げる研究テーマは以下の通りである。

- 1、グループアプローチ・グループ活動に関する研究
- 2、動作法に関する研究
- 3、大学生の対人場面・学生生活での適応・不適応に関する研究

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学演習

担当教員 上田 幸彦

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、1・2年で学んできた基礎知識をもとに、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に各自の関心のあるテーマを見つけ、卒業論文のテーマを決定していく。論文購読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

まず前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法など領域から関心のある論文を読み、概要を報告する。その際、研究の背景、目的、方法、手続き、対象者、結果、結論を十分理解し、全員が理解できるように発表する。これを通して、幅広い対象に心理学的アプローチが可能であることを知り、さまざまな心理学的研究方法があることを理解する。

夏休み中には、さらに上記の領域の中から一つを選び、各自興味のある論文を複数読み、夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。

その後、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時も、ただ参加するだけの受身の姿勢ではいけない。積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションできるように事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、取り組みの積極性、提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード

M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学演習

担当教員 井村 弘子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的にしている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。後期では、各自の関心のあるテーマについて前期で学んだ研究方法を基にデータを収集しレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目的にしている。

【授業の展開計画】

前期では心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的にしているため、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。後期では、前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学演習

担当教員 山入端 津由

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

前期は、前半「心理学基礎演習(後期)」各自の質問紙調査発表を検討する。後半、社会心理学、教育・発達心理学、臨床心理学領域で行われている研究の紹介、同研究で用いられている研究方法、データ処理や読み方を学ぶ。後期は、各自、各グループが関心のある領域の学術論文(原著論文)について文献調査を行い、その中から卒業論文に結びつける学術論文を選択して、購読する。最終的に、卒業研究の計画を立てる。

【授業の展開計画】

1	オリエンテーション	17	各自、各グループ(2名構成)の文献発表
2	各自の「質問紙調査発表」の検討	18	同
3	同	19	同
4	同	20	同
5	同	21	同
5	同	22	同
7	同	23	同
8	同	24	同
9	社会心理学領域の原著論文の購読	25	同
10	同	26	各自、各グループによる卒業論文のテーマ検討
11	同	27	同
12	教育・発達心理学領域の原著論文の購読	28	同
13	同	29	同
14	同	30	総括
15	臨床四隣学領域の原著論文の購読		
16	同		

【履修上の注意事項】

受講生には、自ら積極的に課題処理を行うことが要請されている。率先して課題を処理し、かつゼミ仲間が互いに支えあいながら前向きに授業に臨んでほしい。

【評価方法】

授業への参加状況、課題へ取り組む態度、発表態度や発表要領などの工夫の程度、レポートのまとめ方や内容等について評価する。

【テキスト】

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

精神保健福祉援助技術各論

担当教員 高橋 忍

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉援助実習

担当教員 知名 孝

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 9.0

【授業のねらい】

ねらいのひとつめは、準備学習をすること。実習に望むにあたっての基本的な態度、配属実習先に関する学習、そこで必要になる予備知識や資源に関する知識など。ふたつめに、実習期間中配属先での実習体験をサポートしそれをプロセス（消化）していく作業。そして最後に実習の体験をもとに、自らが何を学び、自らの中でどんな変化があったのかを見つめなおす作業が必要となる。これらを通して、実習という現場学習をより豊かな学習体験として支援していくのがこの授業の主な目的である。

【授業の展開計画】

通年の本演習は4つのセクションに分かれている。

まずは、前期部分の実習前学習。4月に配属先が決まり、その配属先に関しての学習、実習に対しての心構え、必要な基礎知識の復習、そして実習計画や目標の設定などを行う。

2つ目のセクションが、実習中に実習勤務時間を避ける時間帯を設定し、ゼミでの振り返りを行いながら実習を続けていく。その際に学生それぞれが開始した実習体験の点検、見直し、サポートなどを行う。

3つ目のセクションが、実習終了後の学習。実習の振り返り、実習後の報告と報告書の作成。そして国家試験に向けてのサポートを行う。

4つ目のセクションは、前期および後期を通じてのいろいろな時間外のゼミ活動がある。まず精神保健福祉セミナーという形式で、精神保健福祉およびその関連領域についての講演会・ワークショップを開催する。更にオリエンテーション、実習報告発表会、事前学習のための配属先訪問、その他時間外の実習前後の学習を行うことになる。

【履修上の注意事項】

本演習は、精神保健福祉実習を前提としている。そのためには、精神保健福祉援助演習のとその履修に必要な科目を既に履修済みである必要がある。更に、実習の準備に伴うオリエンテーション、通常時間帯以外の講義やワークショップへの出席が義務付けられる。これらの参加がなされない場合は、実習を取りやめにするのもあるので、履修に当たってはこれらゼミ活動への参加のための時間の確保を十分考慮すること。

【評価方法】

いくつかの項目を評価の対象とする。まず出席およびディスカッションその他ゼミ活動への参加状況。次に、前期に作成する実習計画。3番目に実習中の経験に対する学びの姿勢。4番目に実習後の実習体験の振り返りと実習報告書。5番目に実習前後の講義やワークショップなどへの参加状況。最後に実習配属先からの評価。これらをトータルに判断して評価していく。

【テキスト】

テキストおよび参考文献に関しては、本演習開始後に詳細を説明する。

【参考文献】

テキストおよび参考文献に関しては、本演習開始後に詳細を説明する。

福祉教育演習

担当教員 桃原 一彦

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

当演習ゼミは「地域福祉」「福祉コミュニティの構築」に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関するリーダーやコーディネーター、さらに社会問題やマイノリティの問題などに関する運動ネットワーク構築などの人材を育成していくためのゼミである。その学習過程および育成過程において地域の諸問題や実践的課題を可視化し、より具体的に整理し、記述報告していくための技能として、「社会調査」の技法に関する実習を取り入れていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミのテーマは「都市の多元的世界と空間の政治に関する社会学的探求」と題する。すなわち、都市における空間の権力構造と多様な生活世界とのせめぎあいや交渉過程から描かれる、新たな都市コミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。とくに、生活世界の諸相を捉える場合、都市マイノリティに対するまなざしということを前提として考えたい。

まず、各グループで調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は、沖縄県内最大の市街地を抱えつつ、観光イメージの代理表象化に基づく空間造形が著しい那覇市の国際通り界限および周辺地域を取り上げ、その空間の政治とせめぎあう様々な生活世界の層を取り上げていく。

調査内容は、空間の権力構造を知るうえで重要な鍵となる、社会資本および経済資本の空間的配置を理解するために、行政等の関係諸機関において資料調査および聞き取り調査を行なうとともに、様々な生活世界を構成する人々への質的調査（聞き取り、観察など）、さらに観光客等に対する空間イメージの量的調査を実施する。対象は、那覇市旧市街地インナーエリアである国際通り界限およびその周辺を範囲とし、行政等関係諸機関、NPO等のまちづくり関係団体、住民および出店者、路上生活者・商売人、観光客等を対象とする。なお、関係諸機関・団体への聞き取り調査は、都市計画等の変遷や他の機関との関係、社会資本・文化資本の配置との関係、さらにまちづくりNPO等への運動と実践の変遷と効果についてインタビューを行う。

【履修上の注意事項】

2年次または3年次までに「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」と「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

出席状況、受講態度が評価の対象になることが基本だが、全員必ず夏季休暇期間中の社会調査実習に参加していることが単位認定の最低条件である。ただし、社会調査の設計、社会調査への取り組み方と積極性、報告書の記述内容も評価の柱とする。

【テキスト】

地域資料や補足資料・文献、調査技法に関するものを適宜紹介する。

【参考文献】

地域資料や補足資料・文献、調査技法に関するものを適宜紹介する。

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに基づいてディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理療法面接の大枠を理解し、心理臨床的援助の奥深さを感じ取る。

また、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、社会との関わりの中で人間がどのように発達、成長を遂げ、生きていくのかについて、自分の問題に引きつけて考える機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。

抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

卒業論文演習

担当教員 前堂 志乃

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

心理学の各分野についての学習の中から自分なりの問題点を取りあげ、卒論のテーマを設定し関連文献を読み込み、研究デザインを立て発表する。研究デザインに基き、心理学的研究法に沿ったきちんとした手続きのもと実験・調査等を行いデータを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。定期的なゼミでの発表と個別指導で進める。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究計画（デザイン）について

3週目：卒業論文の研究計画（デザイン）の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通して、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。また、3年次の心理学演習のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

卒業論文演習

担当教員 岩田 直子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒業論文を作成し、発表することを目標とする。

演習時には、それぞれの研究テーマを共有し、活発に議論することを重視する。

演習を通して、社会福祉学研究の広がりや豊かさ、また、課題について考えることを重視する

【授業の展開計画】

演習では、各自の研究テーマに対して以下のことを行う。なお、本演習に登録した学生の様子を勘案しながら内容を多少変更することもある。

- ①研究方法に関する講義
- ②個別面談
- ③中間報告会
- ④文献検索等ガイダンス
- ⑤卒業論文報告集の作成
- ⑥卒業論文発表会

また、最終学年の演習として、国家試験対策に取り組む。

【履修上の注意事項】

卒業論文を作成する際、時間的に余裕のある計画を立てる

面談時には与えられた課題をしっかりと準備して臨むこと

【評価方法】

卒業論文の作成プロセスおよび論文の内容

演習の参加態度

出席状況

【テキスト】

その都度、資料を配布する。

【参考文献】

久田則夫編(2003)『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』中央法規

岩田正美他編(2006)『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—』有斐閣アルマ

卒業論文演習

担当教員 桃原 一彦

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

各自の設定した研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、調査実施の手順、データの整理と分析、論文作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は研究方法の検討と調査実施の手順までを個別面談方式で一緒に議論していく。できるだけ夏期休暇中に調査を実施してもらい、後期はデータや資料の整理と論文作成に集中してもらう。なお、後期も個別面談方式を中心とし、集中的に論文作成を指導する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	年間のスケジュールと諸注意	17	調査実施（適宜個別指導）
2	各自研究テーマ候補の報告	18	調査実施（適宜個別指導）
3	各自研究テーマの確定と発表	19	調査実施（適宜個別指導）
4	同上	20	補足調査に関する指導
5	同上	21	データの整理法の指導
6	同上	22	論文構成の再検討
7	研究の企画・設計に向けての指導	23	個別の進捗報告と指導
8	先行研究の収集に関する指導	24	個別の進捗報告と指導
9	キー概念の活用に関する指導	25	個別の進捗報告と指導
10	論文構成（目次立て）の指導	26	個別の進捗報告と指導
11	調査の企画・設計に向けての指導	27	ゼミ全体での中間発表
12	調査項目立ての諸注意	28	卒論仮提出と修正指導
13	個別の進捗報告と指導	29	卒論本提出
14	同上	30	卒業論文集作成
15	同上	31	
16	調査実施（適宜個別指導）		

【履修上の注意事項】

「卒業論文演習」（4単位・専門基礎必修）と「卒業論文」（4単位・専門選択）は異なるので注意する。演習は通年の4年次ゼミのことを意味し、「卒業論文」は指導教員の適切な指導のもと卒業論文を執筆作成し、指定期日に所定の場所に提出し「可」以上の評価を与えられた者にだけ単位が認められる。また、卒業論文の執筆要領、提出期日および提出場所等は前期に掲示板に掲示されるので、ちゃんと確認すること。（人間福祉学科全学生共通事項）

【評価方法】

「卒業論文演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業論文」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い、評価が与えられる。論文の評価は、書式（文字数など）、研究の位置づけ（先行研究と論文内容の関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、調査方法（調査の計画、実行内容、信頼性や妥当性）、分析方法（適切な手順・方法、客観性等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）

【テキスト】

とくになし。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

中根光敏、他編『社会学に正解はない』松籟社・大谷信介、他編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
根本博司、他編『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』中央法規

卒業論文演習

担当教員 知名 孝

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるべく存在が卒業論文であろう。論文執筆作成にかかる作業を行っていくなかで、自らの大学での学びを振り返り、論文という形でつくりあげる作業をすすしていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期	17	リサーチ計画と実行
2	オリエンテーション	18	論文まとめ
3	リサーチのつくりかた	19	
4	リサーチ資源に関するオリエンテーション	20	
5	論文を読む	21	
6	テーマ、リサーチクエッションの設定	22	
7	リサーチデザインの決定	23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16	後期		

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持つておくこと。

【評価方法】

年間の取り組み、最終提出された論文によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習

担当教員 平山 篤史

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

これまでに学んできた心理学の中から興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、それを実施し、論文としてまとめ、発表する。
人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。

【授業の展開計画】

前期には、研究テーマ・目的の設定のための検討会を行う。そのために必要な関連領域の文献の読みこむ。次に、研究の目的を達成するための研究方法についての検討を行う。前期の最終週には、研究テーマ・目的・方法についてのデザイン発表会を行う予定である。
後期には、設定された研究デザインに則り、実験、調査を進め、データを収集する。
11月中旬には、データを整理し、統計的分析を行い、中間発表会を行う。
12月は、得られた結果から考察をし、論文へのまとめの作業を行う。
1月は、発表に向けての準備を行う。

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。
心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。
研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習

担当教員 上田 幸彦

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、心理学的研究法を身につけることがねらいである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的に意義のあるテーマを見出し、そのテーマに基づき、文献検索、文献の読み込み、研究計画作成、データ収集・データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることもねらいとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに卒論研究計画の発表あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について具体的な個別指導を受けながら、夏休み前に、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計分析を終らせ、結果についての中間報告を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に具体的に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させ、最終報告をする。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画・準備・実行すること。最終目標は心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告の発表を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく積極的に個別指導を活用してほしい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方・積極性と提出された論文の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて適宜指示する。

卒業論文演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習

担当教員 井村 弘子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味をもった問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。すべてのデータ収集の後、データの分析と整理を行い、中間発表を経て論文を作成し最終発表を行う。受講学生が主体性をもって取り組むことを最大のねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期ではまず、研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめる。後期では、収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行う。12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終え、論文を完成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

個別指導を中心に行うが、必要に応じて一斉指導を行う。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

卒業論文演習

担当教員 安次富 郁哉

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・調査実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法 2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法 3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆 1
4	論文の書き方DVD鑑賞AVホール	20	データ集計・分析・執筆 2
5	文献、論文検索法	21	データ集計・分析・執筆 3
6	卒論テーマ作成のための個人面談 1	22	データ集計・分析・執筆 4
7	卒論テーマ作成のための個人面談 2	23	データ集計・分析・執筆 5
8	卒論テーマ作成のための個人面談 3	24	データ集計・分析・執筆 6
9	卒論テーマ作成のための個人面談 4	25	卒論発表会 1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会 2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会 3
12	調査票作成 1	28	卒論・ゼミ論集制作
13	調査票作成 2	29	卒論・ゼミ論集制作
14	学生外対象者への調査依頼	30	振り返り
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	
16	データ入力・集計方法 1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミにテーマにしたい内容を発表できるように整理しておくこと。可能な限り前期で卒論テーマを確定し、夏休み中に調査を実施し、集計まで完了させる。後期には執筆を開始することが望ましい。

【評価方法】

完成した卒業論文を客観的評価指標とし、中間口頭発表、論文作成過程、ゼミ参加時態度などを考慮して総合評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業論文演習

担当教員 山入端 津由

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

前半、関心のある学術文献の調査、購読を経て、卒論テーマの設定を行い、先行研究の整理を通して卒論研究デザインを作成する。その後、具体的な卒業論文作成のための研究計画を立て、調査方法を選択し、予備実験や調査を行う。結果の中間発表を経て、本調査を実施する。後半、得られたデータ（例えば定量データや、定性データなど）で分析を行い、卒業論文を作成し、最終発表を行う。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | オリエンテーション | |
| 2 | 文献調査・発表・討議（各自、各グループのテーマに関する文献の購読・発表・討議） | 19 結果の分析及び論文作成（結果をきちんと分析し、章立てを行い、論文を作成する） |
| 3 | 同 | 20 同 |
| 4 | 同 | 21 同 |
| 5 | 調査計画（各自、各グループによる調査デザイン、調査計画等の作成） | 22 同 |
| 6 | 同 | 23 同 |
| 7 | 同 | 24 同 |
| 8 | 予備調査（各自、各グループによる予備調査、実験を行う） | 25 同 |
| | 同 | 26 同 |
| 9 | 同 | |
| 10 | 同 | 27 最終発表の準備 |
| 11 | 中間報告（各自、各グループによる予備調査、実験結果と本調査、実験のデザイン発表） | 28 同 |
| 12 | 本調査、実験の実施（各自、各グループによる本調査の実施及びデータの集計・整理を行う） | 29 最終発表 |
| | | 30 報告書の作成 |
| 13 | 同 | |
| 14 | 同 | |
| 15 | 同 | |
| 16 | 同 | |
| 17 | 結果の分析及び論文作成（結果をきちんと分析し、章立てを行い、論文を作成する） | |

【履修上の注意事項】

個別、グループ指導とゼミ全体指導を適宜使い分けながら行う。各個人、グループの進捗状態に合わせて柔軟に対応する。また、学期初めに個別研究かプロジェクト研究科をはっきりさせる。卒業研究のデザイン発表、中間発表、最終発表の3回の発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、具体的名調査手法はもちろん重要であるが、先行研究と仮説の設定抜きには研究が成立しないので、各自が卒業論文作成のために自己管理をきちんと行うように望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の適正な審査評定と論文作成過程も含め、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、助言、紹介する。

【参考文献】

適宜、紹介、助言を行う。

卒業論文演習

担当教員 比嘉 昌哉

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

「卒業論文演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、資料収集・調査等を行い、最終的に論文をまとめる。受講する学生の主体的な取り組みが本授業の大きなねらいである。

【授業の展開計画】

- ・オリエンテーション(年間のスケジュール)
- ・各自のテーマ候補の報告
- ・各自のテーマの決定
- ・先行研究等の資料収集
- ・個別の進捗状況の報告と個別指導
- ・中間報告会
- ・個別指導
- ・論文の完成
- ・最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕に出来上がるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ちデータの収集を行うなどより積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

最終的に提出された論文と論文作成に至ったプロセス等を総合的に判断して評価する。一方、「卒業論文」は担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介する。

卒業論文演習

担当教員 小柳 正弘

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

人間にとって福祉 (well-being) とは何かということに参加者全員で理論と実践の両面にわたって原理的に検討するとともに、受講者各人のそれぞれなりの問題意識にもとづき福祉の具体的なかたちについて考察を行い、卒業論文を作成する。

【授業の展開計画】

以下の二つのパターンで授業を展開。1. 福祉とは何か、人間とは何かについて、受講者それぞれが自身の考えを交替で発表し、全員で議論する。2. 「障害」と「私たち」はどのように関わっているか、また関わりうるかについて、文献の購読、当事者との交流、映像資料の視聴などをおして考える。いずれの場合も「ともに考える」ということを授業の中核にすえる。そのため、発表担当のとき以外も、コメントを述べたり、レポートを書いたり、といった授業に対する積極的な参加を求める。以下は仮の予定、詳細は受講者と相談して決める。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	前半のまとめ
2	受講者の福祉観についての発表と議論	18	受講者の人間観の発表と議論
3	受講者の福祉観についての発表と議論	19	受講者の人間観の発表と議論
4	受講者の福祉観についての発表と議論	20	受講者の人間観の発表と議論
5	受講者の福祉観についての発表と議論	21	受講者の人間観の発表と議論
6	受講者の福祉観についての発表と議論	22	受講者の人間観の発表と議論
7	受講者の福祉観についての発表と議論	23	受講者の人間観の発表と議論
8	知的障害をめぐって(1)	24	人間とはなにか？ ボノボは人間か(1)
9	知的障害をめぐって(2)	25	人間とはなにか？ ボノボは人間か(2)
10	知的障害をめぐって(3)	26	人間とはなにか？ ボノボは人間か(3)
11	知的障害をめぐって(4)	27	自己決定をめぐって(1) 障害と自由
12	知的障害をめぐって(5)	28	自己決定をめぐって(2) 共鳴と当事者主権
13	身体障害をめぐって(1)	29	人間にとって福祉とは何か
14	身体障害をめぐって(2)	30	全体のまとめ。31回目にテストを行う
15	身体障害をめぐって(3)	31	
16	身体障害をめぐって(4)		

【履修上の注意事項】

「授業のねらい」や「授業の展開計画」に記したように、授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室は「ともに考える」場なので、私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）、質問は原則授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。

【評価方法】

授業への実質的な関わり（各種のレポートや発言記録票）と卒業論文の完成度を総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配付する他、授業の展開に応じて別途指示する。

【参考文献】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』ナカニシヤ出版